

中国地方行政における県と鎮

川勝, 守
九州大学文学部

<https://doi.org/10.15017/24593>

出版情報 : 九州大学東洋史論集. 15, pp.153-190, 1986-12-25. 九州大学文学部東洋史研究会
バージョン :
権利関係 :

中国地方行政における県と鎮

川 勝 守

はじめに

その国土面積の大、また人口数の多において、ウラル以西のヨーロッパ諸国のそれぞれに比敵する中国が、紀元前二二一年の秦の始皇帝による天下統一以来、二千年以上にわたって、ほぼほぼ一つの中国たりえたことは驚異に値することだろう。しかも、後漢三国南北朝、唐末五代、清末民国時代など、幾度かの分裂の時代を経験したにもかかわらずにある。その謎を解く鍵は幾種数個用意されるだろう。中国語古典文語いわゆる漢文が中国人知識人唯一の文章表現であることが古今変りないことに注目する人も居よう。また、孔孟思想―儒教にせよ、老荘思想―道教にせよ、禪淨思想を中心とした中国仏教にしても、それぞれが嫡嫡脈脈と継承せられて中国人の古典となり、それらがそれぞれの時代の今に生きる人々の血肉となってきたことも重視すべきこと柄である。しかしながら、いかなる多様な考え方を取るにしても、第一に指を屈する検討課題は、中国の統一王朝―国家権力の支配政治体制の性格そのものであることは誰しも否定できないだろう。

秦の始皇帝による天下統一は戦国六カ国を滅ぼし、そこに郡県制を施行したことを内容とする。秦帝国の政治体制は封建制を否定した郡県制であるが、この支配体制の特徴は西嶋定生氏によれば次の二点にあると考えられる。

第一の点は、郡県の長官は世襲的な貴族ではなくて、世襲が認められない官僚が皇帝権力の代行者として派遣されたものであり、このことは世襲的な貴族制が否定されて官僚制が成立したこと、いいかえれば、君主の権力が非常に強くなったことを示すものである。

第二の点は、郡県制による支配の性格がいわゆる「個別人身的支配」であるということ、すなわち、もはや支配される人

民は氏族集団としてではなく、個別的な家や人に分解されているということである。このことは郡県制の成立にもなつて、社会組織に大きな変動が起こっていることを物語るものである。

この西嶋氏の理解はさし当つては秦帝国の郡県制の特徴について述べたかに見受けられるが、第一で「世襲的な貴族ではなく」、第二で「氏族集団としてではなく」といった封建から郡県への転換を示す語句を除けば、第一の官僚制支配にしても、第二の個人身的支配にしても、秦以後の後代各王朝の郡県制の性格にも共通してみられるものごとくである。果して然りであろうか。もし、そうだとすれば、郡県制が継統される清末、二〇世紀初まで、その郡県制の特徴として考えられることになるのである。逆に、もしそうでないとすれば、秦帝国の郡県制の性格は後代に大きく変つたことが考えられる。

秦の郡県制が後代に変質した点については、まず、秦をついだ漢で郡県制と封建制の折衷の郡国制が採用されたことが思い浮かぶ。しかし、漢の郡国制は郡県制と封建制とが併用されたもので、郡の位置に等しい王国の下に、県が設置され、王国の官が派遣されていた。しかも、漢初より百年後の武帝のころには、その規模も縮小され、権限もよわめられて、郡や県と変らなくなつた。なお、後漢代になると、郡県の二級制はその上に州が設けられて州郡県の三級制となり、やがて六世紀に南北朝を統一した隋の文帝によつて州県二級制となつた。以後、一時の復活期を除き、郡の名は用いられなくなつた。唐代には要地に府が置かれて府州―県の体制となり宋、元に継承されたが、十四世紀の明代以後、むしろ府―県が主流となつて、府が漢代の郡の位置に当るようになった。なお、府州の上級行政区分には、唐代の道、宋の路、元以後の省などがあり、それぞれの地方最高官が設けられた。

以上のように郡県制は王朝―時代とともに種々の変遷が認められるが、それぞれの性格や特徴ということになると、秦帝国の郡県制のそれとどのよう異なるのか不明な点が多い。一体、戦前の中国研究の文言にみられた「王朝の中央集権支配は県(城)まで」とか「県以下は地方自治」といった理解は、清末民国時代の中央政府―省―府州県の重層関係のあり様が秦帝国の郡県制のそれとあまり変りないものだろうとする認識に基づいていたとも考えられよう。秦漢六朝期の(州)郡県制―隋唐の州県制―唐宋の府州県制―明清の府県制という地方行政制度の変遷はいかなる行政の質の転換であるか、それぞれの行政の性格・特徴は何であるか、これらを考えるために一つのアプローチとして、県行政のあり様とさらに県以下の地方区轄における行政内容を検討すること等が要請される。

本稿は郡県―州県―府県等の行政制度が当該歴史段階の社会組織とどのように連関したかを考えることを通して、中国史における国家と社会の関わりを課題にしようとするものである。問題は巨大であり、従って分析は巨視的マクロに行う必要がある。微視的ミクロな誤差の修正は今後の課題となろう。

一、中国王朝二千年の行政サイズの変遷

― 毎県平均戸・口数 ―

秦漢帝国以後、二十世紀初頭の清朝滅亡―辛亥革命に至る中国王朝二千年の行政サイズの変遷を知るためには、各代における県数と戸口数のそれぞれの統計的处理が最初の手続きであろう。こうした統計処理に必要な数学そのものは歴史史書―正史、実録、会要会典―に頻見するが、その適切な輯集整理・修正作業が必須な手続きである。幸い、先に広州中山大学教授梁方仲氏によって『中国歴代戸口・田地・田賦統計』（一九八〇年、上海人民出版社）が作成された。梁方仲氏が作成した甲表六「中国歴代県戸口数・毎県平均戸数及平均口数」をみよう（第1表）。県数はなんと前漢平帝の元始二年（紀元二）が一五七七で一番多く、中ほど唐の貞観一三年（六三九）の一四〇八と天宝元年（七四二）の一五七〇と漢の県数近くに復したが、それ以外は概して一〇〇―一二〇〇台で、清の十八世紀乾隆十八年に一三〇〇台となった。戸口数の変動も県数の変動と相似ている。戸・口数とも極端に少ない西晋―北魏間を除き、戸数は前漢の一〇〇万、後漢・隋唐の九〇〇万、北宋二〇〇万、元明一〇〇―一三〇〇万と変化し、清乾隆一八年に三八〇〇万台となる。口数も、前漢の五七〇〇万、後漢の四七〇〇―四九〇〇万台、唐天宝五〇〇万、北宋四五〇〇万、元明六〇〇〇万と変化して清の乾隆一八年に一億を超える。毎県平均戸・口数の変動も、以上の県数・口数の変動と基本的に同じものであることは当然である。こうしたことから、清の乾隆の数字を除けば、要するに漢唐宋明どの王朝においても、漢代の数字が基準となつてゐる観が強く、県の数も戸口数もそう大きな変動はないのである。

ところで、漢―清二千年の中国王朝国家では、第一に版図領域に伸縮があり、第二に大きく言つて唐以前の華北、以後の華中といった人口、戸・口の集中度の移動などの社会変化の要素などがあり、それらは統計処理に考慮すべきなのである。そこで、梁方仲氏が作成した各歴代の各表を基に、第1表を修正する第2表を作成した。ただし、歴代は、漢の元始二年（紀元

第1表 「中国歴代県数・戸数・口数・毎県平均戸・口数」

| 朝代別 | 紀年 | 公元 | 県数 | 戸数 | 口数 | 毎県平均戸数 | 毎県平均口数 |
|--------------|--------|---------------|------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------|------------------------------------|------------------------|
| 前漢 後漢 | 元始2年 | 2 | 1,577 | 12,356,470 | 57,671,401 | 7,835.43 | 36,570.32 |
| | 永和5年 | 140 | (一) 1,160 (二) 1,180 | 9,336,665 9,698,630 | 47,892,413 49,150,220 | 8,096.94 8,219.98 | 41,286.56 41,652.73 |
| 西晋 | 太康元年 | 280 | (一) 1,232 (二) 1,232 | 2,494,125 2,470,305 | | 2,037.68 2,018.22 | |
| | | | 1,265 | 901,769 | 5,174,074 | 743.42 | 4,090.18 |
| 宋 北魏 | 大明8年 | 464 | 821 | 2,007,966 | 7,591,654 | 2,445.49 | 9,246.84 |
| | 武定年間 | 543-550 | (一) 819 (二) 819 | 1,999,786 | 7,703,942 | 2,441.74 | 9,406.52 |
| 隋 | 大業5年 | 609 | (一) 1,253 (二) 1,255 | 9,070,414 8,907,546 | | 7,303.07 7,097.65 | |
| | | | 1,408 | 3,041,871 | 12,351,681 | 2,201.07 | 8,772.50 |
| 唐 貞觀 | 貞觀13年 | 639 | 1,570 | 8,973,634 | 50,975,543 | 5,715.69 | 32,468.50 |
| | 天寶元年 | 742 | 1,265 | 20,264,307 | 45,324,154 | 16,019.20 | 35,829.37 |
| 北宋 金 元 | 崇寧元年 | 1102 | 1,324 (元史) 1,110 (新元史) 1,131 | 9,879,624 13,867,219 13,867,219 | 59,519,727 59,519,727 | 7,461.90 13,427.43 13,618.91 | 53,621.38 52,625.75 |
| | 明 清 | 萬曆6年 乾隆18年 | 1578 1753 | 1,138 1,305 | 10,621,436 38,845,354 | 60,692,856 103,050,000 | 9,333.42 29,766.55 |

(典拠) 梁方仲「中国歴代戸口・田地・田賦統計」280頁。甲表89「中国歴代県戸口数・毎県平均戸数及平均口数」

(二)、唐天寶元年(七四二)、宋崇寧元年(一一〇二)、明万曆六年(一五七八)、清乾隆一八年(一七五三)の五時期とする。なお、郡県―州県―府県より上級の大行政区轄は時代王朝によって変動が大きい。一応、明清期の省を基準に、それを漢唐宋に適応したが、地点・州県所在の比定には、松田寿男・森鹿三編『アジア歴史地図』(平凡社、一九六六年)及び、譚其驤主編『中国歴史地図集』各代、一―六冊、(地図出版社、一九八一年)を使用した。

(第2表 註) ①典拠と修正方法――(Ⅰ)漢元始二年(紀元二)……梁方仲前掲書一四―一七頁甲表3、ただし、冀州・幽州の合計から玄菟・楽浪郡分を除き、交趾分から交趾・九真・日南郡分を除いた。さらに、司隸の弘農・河内・河南・河東郡、兗州の陳留郡、荊州の南陽郡は河南へ、徐州の琅邪郡・魯国は山東へ、豫州の沛郡は南直隸・江蘇へ、揚州の豫章郡は江西へ、益州の漢中郡は陝西へと移動した。(Ⅱ)唐天寶元年(七四二)……同書八六―九四頁甲表26、ただし、河南道の陝・靈昌・采陽・潁川・淮陽・汝南・陳留・睢陽と山南東道の淮安・南陽と淮南道の弋陽・義陽の諸郡は河南へ、河南道の弘農郡、山南東道の漢陰郡、山南西道の漢中・洋川・河池・順政・同谷の諸郡は陝西へ、河南道の汝陰・譙郡・彭城・臨淮・鍾離の諸郡と東海郡、江南西道の宣城・新安郡は江蘇・安徽へ、淮南道の蕲春・安陸・齊安の諸郡、

第2表 「中国歴代県数・戸数・口数・毎県平均戸・口数・毎戸平均口数」

| 年代(西暦) | 地域名 | 県数 | 戸数 | 口数 | 毎県平均戸数 | 毎県平均口数 | 毎戸平均口数 |
|-----------------|----------------|-----|-----------|------------|------------|-------------|--------|
| (I)漢元始2(2) | 冀州・幽州 | 263 | 1,905,948 | 8,263,525 | 7,246.95 | 31,420.24 | 4.33 |
| (II)唐天宝1(742) | 河北道 | 142 | 1,384,098 | 9,627,616 | *9,747.16 | *67,800.11 | *6.95 |
| (III)宋崇寧1(1102) | 河北東西路 | 111 | 1,136,670 | 2,675,648 | 10,240.27 | 24,104.93 | 2.35 |
| (IV)明万曆6(1578) | 北直隸 | 133 | 425,463 | 4,264,898 | 3,198.96 | 32,066.90 | *10.02 |
| (V)清乾隆18(1753) | 直隸 | 115 | 3,071,975 | 9,374,217 | 26,712.82 | *81,514.93 | *3.06 |
| (I)(2) | 冀州・青州 | 274 | 2,667,014 | 12,246,203 | *9,733.62 | *44,694.17 | 4.59 |
| (II)(742) | 河南道 | 69 | 657,787 | 4,062,055 | *9,533.14 | *58,870.36 | *6.17 |
| (III)(1102) | 京東東西路 | 67 | 1,199,291 | 2,613,170 | *17,899.86 | *39,002.53 | 2.17 |
| (IV)(1578) | 山東布政使司 | 104 | 1,372,206 | 5,664,099 | *13,194.28 | *54,462.49 | 4.13 |
| (V)(1753) | 山東省 | 104 | 4,539,957 | 12,769,872 | *43,653.43 | *122,787.23 | *2.81 |
| (I)(2) | 司隸・豫州 | 176 | 2,164,780 | 11,102,166 | *12,299.88 | *63,080.48 | *5.12 |
| (II)(742) | 都畿道・河南道 | 94 | 932,998 | 5,331,624 | *9,925.51 | *56,719.40 | *5.71 |
| (III)(1102) | 京畿路・京西北路 | 111 | 1,196,625 | 2,627,890 | 10,780.40 | 23,674.68 | 2.19 |
| (IV)(1578) | 河南 | 107 | 633,067 | 5,193,602 | 5,916.51 | *48,538.33 | *8.20 |
| (V)(1753) | 河南 | 101 | 3,029,528 | 7,114,346 | *29,995.32 | 70,439.06 | 2.35 |
| (I)(2) | 并州・朔方 | 174 | 764,165 | 3,600,326 | 4,391.75 | 20,691.52 | *4.71 |
| (II)(742) | 河東道 | 102 | 630,511 | 3,723,217 | *6,181.48 | *36,502.12 | *5.90 |
| (III)(1102) | 河東路 | 79 | 613,532 | 2,521,761 | 7,688.24 | 31,921.02 | *4.11 |
| (IV)(1578) | 山西 | 95 | 596,097 | 5,319,359 | 6,274.70 | *55,993.25 | *8.92 |
| (V)(1753) | 山西 | 91 | 1,779,247 | 5,162,351 | 19,552.16 | 56,729.13 | *2.90 |
| (I)(2) | 司隸・涼州 | 184 | 1,080,010 | 4,018,989 | 5,869.61 | 21,842.32 | 3.72 |
| (II)(742) | 京畿道・關内道・關石道 | 211 | 1,028,887 | 5,551,531 | 4,876.24 | 26,310.57 | 5.39 |
| (III)(1102) | 永興軍・秦鳳路 | 133 | 1,567,491 | 4,081,407 | 11,785.64 | 30,687.27 | *2.60 |
| (IV)(1578) | 陝西 | 116 | 394,423 | 4,502,067 | 3,400.19 | 38,810.92 | *11.41 |
| (V)(1753) | 陝西・甘肅 | 156 | 2,035,695 | 5,984,265 | 13,049.32 | 38,360.67 | *2.93 |
| (I)(2) | 徐州・揚州 | 175 | 2,060,576 | 9,666,660 | *11,774.72 | *55,238.05 | *4.69 |
| (II)(742) | 淮南道・江南道 | 95 | 1,126,167 | 6,052,822 | *11,854.38 | *63,713.91 | *5.37 |
| (III)(1102) | 淮南東西路・江南東路・商浙路 | 119 | 2,573,591 | 5,431,301 | *21,626.81 | *45,641.18 | 2.11 |
| (IV)(1578) | 兩直隸 | 114 | 2,069,067 | 10,502,651 | *18,149.71 | *92,128.51 | 5.08 |
| (V)(1753) | 江蘇・安徽 | 122 | 9,614,412 | 25,054,348 | *78,806.65 | *205,363.50 | 2.60 |
| (I)(2) | 揚州・会稽郡 | 17 | 145,833 | 675,164 | *8,578.41 | *39,715.52 | 4.62 |
| (II)(742) | 江南東道 | 43 | 542,165 | 3,512,209 | *12,608.48 | *81,679.27 | *6.47 |
| (III)(1102) | 商浙路 | 66 | 1,593,447 | 2,907,654 | *24,143.13 | *44,055.36 | 1.82 |
| (IV)(1578) | 浙江 | 76 | 1,542,403 | 5,153,005 | *20,294.77 | *67,802.69 | 3.34 |
| (V)(1753) | 浙江 | 77 | 3,043,786 | 8,662,808 | *39,529.68 | *112,504.00 | *2.85 |
| (I)(2) | 揚州・豫章郡 | 18 | 67,462 | 351,965 | 3,747.89 | 19,553.61 | *5.22 |
| (II)(742) | 江南西道 | 33 | 248,547 | 1,676,257 | *7,531.72 | *50,795.66 | *6.74 |
| (III)(1102) | 江南西路 | 66 | 2,000,409 | 4,452,555 | *30,309.22 | *67,462.95 | 2.22 |
| (IV)(1578) | 江西 | 78 | 1,341,005 | 5,859,026 | *17,192.37 | *75,115.71 | 4.37 |
| (V)(1753) | 江西 | 80 | 2,185,195 | 5,055,251 | *27,314.93 | 63,190.63 | 2.31 |

| | | | | | | | | |
|-------|--------|-----------------|------|------------|-------------|------------|------------|--------|
| (I) | (2) | 荆州 | 79 | 309,281 | 1,655,207 | 3,914.94 | 20,951.98 | *5.35 |
| (II) | (742) | 江南黔中道 | 69 | 221,492 | 1,042,501 | 3,210.02 | 15,108.71 | 4.70 |
| (III) | (1102) | 荆湖南北路・京西南路 | 98 | 1,761,683 | 3,826,395 | *17,976.35 | *39,044.84 | 2.17 |
| (IV) | (1578) | 湖広 | 125 | 541,310 | 4,398,785 | 4,330.48 | 35,190.28 | *8.13 |
| (V) | (1753) | 湖北・湖南 | 127 | 3,421,147 | 8,905,192 | 26,938.16 | 70,119.62 | 2.60 |
| (I) | (2) | 益州 | 116 | 922,589 | 4,483,600 | 7,953.35 | *38,651.72 | *4.85 |
| (II) | (742) | 劍南道 | 205 | 942,248 | 4,130,725 | 4,596.33 | 20,149.87 | 4.38 |
| (III) | (1102) | 利州路・夔州路・梓州路・成都府 | 169 | 1,862,488 | 5,547,180 | 11,713.76 | 35,332.35 | *2.97 |
| (IV) | (1578) | 四川 | 126 | 262,694 | 3,102,073 | 2,080.11 | 24,619.62 | *11.81 |
| (V) | (1753) | 四川 | 141 | 750,785 | 1,368,496 | 5,324.71 | 9,705.64 | 1.82 |
| (I) | (2) | (閩)揚州 会稽郡 | 1 | 8,578 | 39,716 | *8,578.00 | *39,716.00 | 4.62 |
| (II) | (742) | 江南東道 | 25 | 91,186 | 410,587 | 3,647.44 | 16,423.48 | 4.50 |
| (III) | (1102) | 福建路 | 47 | 1,061,759 | 2,808,851 | *22,590.62 | *59,762.78 | *2.64 |
| (IV) | (1578) | 福建 | 57 | 515,307 | 1,738,793 | *9,040.47 | 30,505.14 | 3.37 |
| (V) | (1753) | 福建 | 62 | 1,127,746 | 4,710,399 | 18,189.45 | *75,974.17 | *4.18 |
| (I) | (2) | 交趾 | 11 | 35,011 | 173,233 | 3,182.81 | 15,748.45 | *4.94 |
| (II) | (742) | 嶺南道 | 98 | 222,990 | 548,370 | 2,275.40 | 5,595.61 | 2.45 |
| (III) | (1102) | 広南東路 | 43 | 574,286 | 784,074 | 13,355.49 | 18,234.27 | 1.36 |
| (IV) | (1578) | 広東 | 82 | 530,712 | 2,040,655 | 6,472.09 | 24,886.03 | 3.85 |
| (V) | (1753) | 広東 | 84 | 1,241,940 | 3,969,248 | 14,785.00 | 47,252.95 | *3.20 |
| (I) | (2) | 交趾 | 22 | 36,794 | 217,322 | 1,672.45 | 9,878.27 | *5.90 |
| (II) | (742) | 嶺南道 | 190 | 124,855 | 513,127 | 657.13 | 2,700.66 | 4.10 |
| (III) | (1102) | 広南西路 | 68 | 236,533 | 1,341,572 | 3,478.43 | 19,729.00 | *5.67 |
| (IV) | (1578) | 広西 | 50 | 218,712 | 1,186,179 | 4,374.24 | 23,723.58 | 5.42 |
| (V) | (1753) | 広西 | 49 | 943,020 | 1,975,619 | 19,245.30 | 40,318.75 | 2.09 |
| (I) | (2) | | | | | | | |
| (II) | (742) | | | | | | | |
| (III) | (1102) | | | | | | | |
| (IV) | (1578) | 雲南 | 55 | 135,560 | 1,476,692 | 2,464.72 | 26,848.94 | *10.89 |
| (V) | (1753) | 雲南 | 41 | 371,284 | 1,003,058 | 9,055.70 | 24,464.82 | 2.70 |
| (I) | (2) | | | | | | | |
| (II) | (742) | | | | | | | |
| (III) | (1102) | | | | | | | |
| (IV) | (1578) | 貴州 | 14 | 43,405 | 290,972 | 3,100.35 | 20,783.71 | *6.70 |
| (V) | (1753) | 貴州 | 34 | 629,835 | 1,718,848 | 18,524.55 | 50,554.35 | *2.72 |
| (I) | (2) | 全国 | 1510 | 12,168,041 | 56,494,076 | 8,058.30 | 37,413.29 | 4.64 |
| (II) | (742) | 〃 | 1376 | 8,154,231 | 46,182,641 | 5,926.03 | 33,562.96 | 5.66 |
| (III) | (1102) | 〃 | 1177 | 17,377,805 | 41,619,458 | 14,764.49 | 35,360.62 | 2.39 |
| (IV) | (1578) | 〃 | 1332 | 10,621,436 | 60,692,856 | 7,974.05 | 45,565.20 | 5.71 |
| (V) | (1753) | 〃 | 1384 | 37,785,552 | 102,828,318 | 27,301.69 | 74,297.91 | 2.72 |

江南西道の江夏・巴陵・長沙、衡陽・零陵・江華・桂陽、邵陽諸郡と黔中道の盧溪・盧陽・清化・潭陽・尤溪の諸郡は湖広―湖北湖南へ移した。また、山南東道の雲安、南賓・涪陵・南浦の諸郡は四川へ移した。また、江南東道の呉興・余杭・新定・会稽・余姚・信安・縉雲・永嘉・臨海諸郡は浙江へ、長樂、建安・清源・臨汀・漳浦諸郡は福建へそれぞれ移した。なお、岭南道の楽興・安南中都護府・承化・九眞諸郡は除外した。(Ⅲ) 宋崇寧元年(一一〇二)……同書一五二―一六〇頁甲表38、ただし、京東西路の応天府、京西南路の鄧州・唐州、河北西路の濬・衛・懷州、永興軍路の陝州は河南へ、京西南路金州・利州路興元府・洋・沔州・大安軍は陝西へ、京東東路淮陽軍、京東西路徐州それに両浙路の平江・鎮江兩府・常州は江蘇・安徽へ、江南東路の饒・信州は江西、淮南西路新・光・黃州は湖広へそれぞれ移した。(Ⅳ) 明万曆六年(一五七八)……同書二〇三―四頁甲表69、二〇五―六頁甲表70、二〇六頁甲表71、二〇七頁甲表72より作成。(Ⅴ) 清乾隆一八年(一七五三)……同書二五八頁甲表78、二五九頁甲表79、二六〇頁甲表80、二六一頁甲表81より作成。②表中の*記号は全国平均値を上廻るもの。

第2表から何がわかるだろうか。県数の総数は漢代が一番多く、北宋が最小、唐・明・清は大差がない。ただし、時代ごとの地域間の変動、地域ごとの時代間の変動はその幅がいずれも大きい。

〔時代ごとの地域間の変動〕

(Ⅰ) 漢代 県数が最大であるが、それは兗州・青州―山東、冀州・幽州―直隸(河北)、司隸・涼州(陝西甘肅)、司隸・豫州―河南、并州・朔方―山西の華北に集中し、それで七〇%を占める。なお、徐州・揚州も八割は長江以北の江北で華北に続く地域でそれを含めれば、県の総数の八二・五%となり、漢代の県は殆どが華北にあったことになるが、これは戸数や口数にも同様に言えることである。また、毎県平均戸・口数について、一般に県は戸数一万戸、口数五万と言われるが、漢代でこの数字を超えるのは河南、江蘇安徽の二地方しかなく、山東が近似している位である。逆に山西、陝西甘肅、江西、湖北湖南、広東広西では半分以下と極めて少数であったりして、一県当り戸口数からみて県の維持は困難であったと判断される。

(Ⅱ) 唐代 直隸(河北)、河南、山西、江蘇安徽などは半減し、特に山東は四分の一に激減した。逆に、陝西甘肅、浙江、江西、

湖北湖南、四川、福建、両広は増加したが、中では陝西甘肅、四川、両広の増加振りが注目されるが、これは唐代史の性格を物語っているようである。毎年平均戸・口数を見ると、戸数一万户、口数五万を超えるか、近似のものは、直隸（河北）、山東、河南、江蘇安徽、浙江、江西とあり、漢代より一県当り戸口数の適正化は進展したと言えよう。

(Ⅲ)宋代 各時代を通じて県数が最少の時代であるが、もう一つの特徴として戸数が口数に比して多過ぎることがある。唐より県数の減少したのは直隸、山東、山西、陝西甘肅、四川、広東広西であり、増加したのは河南、江蘇安徽、浙江、江西、湖北湖南、福建である。なお宋代ではなにかの理由で戸口数にアンバランスがあるから、戸数一万としても、口数は三万五千を基準とすると、これを超えるか近似の地方は山東、江蘇安徽、浙江、江西、湖北湖南、四川、福建となり、いわゆる長江流域の江南地方の戸口充実振りがわかる。特に、江西、福建はむしろ県数が不足している、一県当りの戸・口数が多い、という感さえある。

(Ⅳ)明代 宋代より県数が減った地域は河南、陝西、江蘇安徽、四川、広西であり、戸数減少が一般的で増加は山東のみ、口数の減少は四川、福建、広西である。戸数一万户、口数五万を基準とすれば、山東、江蘇安徽、浙江、江西が基準を超える。山西が戸数は六千台であるのに対し、口数が五万を超えているのが注目される。四川、福建は戸口の激減がみられた。

(Ⅴ)清代 明代より県数の減少したのは直隸、河南、山西、広西であるが、概して明の県数と大差がない。しかし、戸・口数の増加は著しく、倍増しているものが殆どである。そのため、一県当りの戸口数も、戸数一万户、口数五万人をはるかに超え、四川の戸口、広東、広西の口数が下廻っているだけである。特に、山東、江蘇安徽、浙江は戸数で四万户、口数で一〇万人を超え人口過密現象を呈している。

(Ⅰ)漢代―(Ⅴ)清代を通してみると、概して黄河流域の直隸、山東、河南、山西、陝西、江蘇安徽の県数が減少し、逆に浙江、江西、湖北湖南、福建らが増加し、南北両地域は補完相殺の関係になっている。

〔地域ごとの時代間の変動〕

直隸 漢代では山東に次いで県数が多く、戸口数も充実していた。しかし、唐代の口数を除けば、他の県数・戸口数とも減少を続け、その回復は清朝になってやっと行われる状態であった。なお、元明清時代の首都北京の所在する地域である。

山東 漢代では県数・戸口数とも全国最大の重要地域であった。唐―明間、県数・戸口数とも漢代を下廻り、その恢復はやはり清朝であった。戸口数の減少に対して県数も激減したので、毎県平均戸口数は適正を保っていた。高度な行政判断があったものと思われる。

河南 概して直隸、山東と同様なことがいえるが、漢―唐間で県数、戸数・口数とも半減したこと、宋代では戸数が唐より倍増しているのに対し、口数が半減したことなどが注目される。清朝になっても、戸数はともかく口数は漢代のそれに恢復できなかつた。なお、漢―唐の東都洛陽、宋の国都開封の所在地域である。

山西 宋代に口数が百万人以上の減少があつたが、概して漢―清間の戸口数の変動幅は小さい。それに対し、県数に変動がある。基準戸口数との間に余裕があつたことも県数変動の要因か。

陝西甘肅 ここは版図領域に伸縮があるところで、県数等の変動がある。しかし、戸口数は概して一定である。なぜか明の戸数が極端に少ない。漢唐の都長安の所在地である。

江蘇安徽 この地域は長江以北と以南を含み漢唐は江北の比重が高く、宋清は江南が高い。漢唐で県数・戸数が半減しているのは南北朝の動乱の影響か。唐以後は順調な増加である。

浙江 唐代での開発が著しく、県数・戸数・口数とも倍増している。唐―宋―明―清間では戸口数とも増減の両面があるが、清朝での増加は著しい。

江西 ここは宋代での県数・戸数・口数の増加が著しく、この期での開発を物語っている。なお、宋―明の戸数減少、明―清の口数減少が注目される。

湖北湖南 県数は確実に増加しているが、戸数口数とも変動が激しい。明から清へ戸口数の激増は、清代に湖廣を湖北・湖南の二省に分割した要因をなす。

四川 唐代の県数が異常に多い。宋代の戸口数が最高であり、以後戸口数、特に口数は減少をたどる。

福建 県数は著実に増加しているが、戸口数では、宋から明にかけて半減している。

広東 唐代の県数が異常に多い。戸口数は著実に増加している。

広西 広東同様、唐代の県数が多い。戸口数は明代が前代より減少している。

雲南・貴州 いずれも明代に統計に入った。両省とも県数に変動がある。

*印のついた毎県平均戸口数の個所をみると、山東、江蘇安徽、浙江が全時代平均を上廻り、逆に陝西甘肅、広東、広西は一つも*がつかず、すべて平均を下廻っている。江西(7)、河南・福建(6)がよい方で、直隸・山西(3)、湖南湖北(2)、四川(1)は少ししか平均以上のものはない。山東、江蘇安徽、浙江以外は時代による県の設置数・戸口数とも変動が大きいこと、反面、県の設置数と戸口数との相関が適正規模以下であったことが多いことを示しているのである。

第2表からはいろいろなことがわかるし、また、いろいろと考える必要のあることが提起されよう。その中でさし当り、先ず検討する必要のあることは二点、二時代についてである。その一は、宋代について、特に県数の減少と、戸口数間のアンバランスについてである。戸数に比して口数が少な過ぎるか、その逆であるかともかく、宋代の行政支配の枠組みの検討が必要になる。次に二点目は、明から清への戸数口数の大増加への対応である。極端に言えば漢—明千八百五十年の戸口の固定化が全く解体されたのが清十八世紀であった。

二、宋代の行政サイズ—県等数・郷数・鎮数の相関

周知のごとく、宋は唐末五代の節度使藩鎮の地方分権的武人支配を否定し、文人官僚による中央集権化を企図した。宋帝国の政治体制は漢—唐の郡県制を継承した(府)州県制であるが、この支配体制の特徴は第一に、いわゆる君主独裁の下で科挙(出身の文人官僚による官僚行政であり、第二にはその科挙が門閥家柄ではなく、試験合格を基準、いうなれば人間の能力を基準にしたという点で、被支配層と支配層とが互換可能な水平移動的社会状態となり、こうした「民」を皇帝が「個人身身的支配」するのは極めて容易であるともなる。しかしながら、宋代州県制行政は、前節で触れたように、一つには県数そのものが減少していたこと、次に戸口数のアンバランスがあったことなどの問題点が考えられるほか、次のような重要問題があった。あるいはそうした諸問題は相互関連性があったのかも知れない。

宋が国内統一を進めていた頃より前に、中国東北・北方辺の国境外には契丹人の国遼が国力を充実させ仏教文化の花を咲かせていた。宋が武人支配を否定し文人官僚制を採用した結果、軍事力が弱化したのにつけ込み、北方地域への遼の侵略が開始された。さらに、西北辺には西夏が、また東北には遼に代って女眞の金が、その後にはモンゴル、といった北方民族の脅威は

宋帝国（北宋↓南宋）三百年間断なく続いた。そのため、長城線沿いに軍隊を張りつける必要があったが、北宋盛時には河北路兵（禁・廂・義）四七万七千人、河東路兵（禁・廂）一二万四千七百人、陝西路兵（禁・廂・郷）四五万九百人があり、それぞれ糧草として一〇二〇万石、五〇〇万石、一五〇〇万石が必要であった。自給率は三〇%、一三%、五〇%と推定されるが、これから計算すれば、河北路の七〇〇万石、河東路の四三〇万石、陝西路の七五〇万石は他から移入する必要があった。実際には現地地で米糧、和買が行われて、官が江南より水運で動く量は約六〇〇万石にとどまった（西淮一五〇万石、江南東西二二〇万石、兩浙一五五万石、湖南北一〇〇万石）、しかしながら、北辺軍隊の軍餉補給体制は宋代州県行政システムに種々の影響を与えたことと思う。次に、唐中期以来の地方分権の傾向はかえって地方の産業発展を促し、呉越や南唐、南漢、閩などの地方文化を開花させた面もあるが、それが遼、西夏、金、さらに高麗、日本などを含んで、一一―一二世紀には東アジア全体が中国を中心とした国際経済圏内に包攝されるに至った。勿論、中国における各地方の産業発展―生産諸力の発展が基礎になって全国的市場が成立することが前提であるが、しかし、これとても、先の北辺軍への軍餉補給体制と無関係ではなく、また、茶、絹、生糸、陶磁器それに銀、銅銭が歳幣として北方民族へ譲渡されることも重要な構成要因となっていると思われる。以上のような宋の東アジア世界における国際的位置や中国経済発展の中の宋の到達した水準は、宋代州県行政にいかなる刻印を押しただであらうか。これは北宋の盛時、一一世紀後葉の神宗元豊年間に編せられた『元豊九域志』がよい素材を提供してくれる。既に旧稿で述べたごとく、『元豊九域志』には始めて鎮の数及び名称が挙げられているほか、府州に準ずる行政区轄としての同下州としての軍や監、県に準ずる監、その他城・寨・堡・関・鎮・場・井・院・尉司などさまざまなレベルの行政区轄を記している。さらに鎮のほかに、これと同レベルのものとして、寨・堡・開・倉・監・井・冶・場・坑などが挙げられているが、これは寨堡などの軍事施設のほかに、塩法、鑄銭（銅銭・鉄銭）、坑山（金・銀・銅・鉛・錫）や製錬所（冶）、さらに各種物品の取引場などを、各路府州軍監の具監ごとに記入しているのである。これは単に各地産物の列挙でなく、国内経済運営の立場、通商産業の立場からの秀れて行政的報告書の内容となっている。そこで『元豊九域志』の内容を以下の手続きで表化し、第3表を作成した。第一に、路名、府州軍監、具監数は記載のままに列挙し、第二に郷数、鎮数は府州軍監ごとに合算し、無鎮県数を割り出し、さらに参考として主戸、客戸数を引記する。備考欄には、鎮数の個所に※をつけたものについて、『元豊九域志』の鎮の次に記載されている場、寨等の数を合算計上した。なお、ここでは専ら『元豊九域志』

第3表 「元豊九域志」巻1-9、四京各路の県・郷・鎮数の相関

| 路名 | 府・州名 軍・監 | 県・監数 (A) | 郷数 (B) | 鎮数 (C) | 無鎮 縣数 (D) | C A | B C | 主戸数 | 客戸数 | 備考 (※内容)($\frac{D}{A}\%$) |
|--------|-------------|-------------|-----------|-----------|-----------------|--------|--------|---------|---------|--------------------------------|
| 四京 | 東京開封府 | 17 | 103 | 31 | 3 | 1.82 | 3.32 | 183,770 | 51,829 | (17.6%) |
| | 西京河南府 | 13・1 | 41 | 22* | 1 | 1.57 | 1.86 | 78,550 | 37,125 | 場1(7.1%) |
| | 南京応天府 | 7 | 40 | 13 | 1 | 1.85 | 3.08 | 65,490 | 25,844 | (14.2%) |
| | 北京大名府 | 13 | 41 | 20 | 3 | 1.53 | 2.05 | 102,321 | 39,548 | (23%) |
| 京東路・東路 | 青州 | 6 | 23 | 3* | 3 | 0.50 | 7.67 | 67,216 | 25,846 | 務2 |
| | 密州 | 4 | 8 | 2 | 2 | 0.50 | 4.00 | 73,642 | 76,505 | |
| | 齊州 | 5 | 14 | 8 | 1 | 1.60 | 1.75 | 35,120 | 24,969 | |
| | 登州 | 4 | 12 | 1* | 3 | 0.25 | 12.00 | 49,560 | 28,670 | 寨4 |
| | 萊州 | 4 | 12 | 2 | 3 | 0.50 | 6.00 | 75,281 | 47,700 | |
| | 濰州 | 3 | 10 | 0 | 3 | 0 | ∞ | 36,806 | 13,125 | |
| | 淄州 | 4 | 7 | 7 | 1 | 1.75 | 1.00 | 32,519 | 24,008 | |
| | 淮陽軍 | 2 | 11 | 3 | 1 | 1.50 | 3.67 | 33,948 | 51,541 | |
| | ○ | 32 | 97 | 26 | 17 | 0.81 | 3.73 | | | (53.1%) |
| 京東路・西路 | 袁州 | 7・1 | 16 | 2 | 5 | 0.25 | 8.00 | 56,178 | 39,524 | |
| | 徐州 | 5・1 | 20 | 5 | 2 | 0.83 | 4.00 | 84,870 | 19,046 | |
| | 曹州 | 5 | 19 | 1 | 4 | 0.20 | 19.00 | 42,358 | 20,252 | |
| | 鄆州 | 6 | 21 | 15 | 2 | 2.50 | 1.40 | 67,260 | 66,777 | |
| | 濟州 | 4 | 19 | 3 | 2 | 0.75 | 6.33 | 41,045 | 14,453 | |
| | 單州 | 4 | 19 | 1 | 3 | 0.25 | 19.00 | 48,470 | 11,807 | |
| | 濮州 | 4 | 25 | 5 | 0 | 1.25 | 5.00 | 45,367 | 14,469 | |
| | ○ | 37 | 139 | 32 | 18 | 0.86 | 4.34 | | | (48.6%) |
| | 京西路・南路 | 襄州 | 7 | 28 | 18 | 1 | 2.57 | 1.56 | 40,772 | 52,255 |
| 鄆州 | | 5 | 11 | 22 | 1 | 4.40 | 0.50 | 17,370 | 17,105 | |
| 隨州 | | 3 | 5 | 1 | 2 | 0.33 | 5.00 | 12,135 | 25,977 | |
| 金州 | | 4 | 17 | 2 | 3 | 0.50 | 8.50 | 13,132 | 23,049 | |
| 房州 | | 2 | 7 | 2 | 0 | 1.00 | 3.50 | 14,118 | 7,113 | |
| 均州 | | 2 | 8 | 1 | 1 | 0.50 | 8.00 | 21,946 | 5,033 | |
| 鄆州 | | 2 | 5 | 14 | 0 | 7.00 | 0.36 | 6,640 | 24,935 | |
| 唐州 | | 5 | 9 | 6 | 2 | 1.20 | 1.50 | 21,758 | 11,243 | |
| ○ | 30 | 90 | 66 | 10 | 2.20 | 1.36 | | | (33.3%) | |
| 京西路・北路 | 潁昌府 | 6 | 29 | 10 | 1 | 1.67 | 2.90 | 31,675 | 25,777 | |
| | 鄭州 | 5 | 14 | 7 | 1 | 1.40 | 2.00 | 14,744 | 16,232 | |
| | 滑州 | 3 | 13 | 2 | 1 | 0.67 | 6.50 | 20,959 | 2,423 | |
| | 孟州 | 6 | 15 | 0* | 6 | 0 | ∞ | 22,742 | 7,333 | 関1 |
| | 蔡州 | 10 | 28 | 13 | 5 | 1.30 | 2.15 | 62,156 | 75,930 | |
| | 陳州 | 4 | 22 | 8 | 0 | 2.00 | 2.75 | 25,649 | 18,584 | |
| | 潁州 | 4 | 13 | 11 | 0 | 2.75 | 1.18 | 45,624 | 45,784 | |
| | 汝州 | 5 | 8 | 9 | 0 | 1.80 | 0.89 | 24,139 | 28,236 | |
| 信陽軍 | 2 | 4 | 1 | 1 | 0.50 | 4.00 | 5,666 | 12,732 | | |
| ○ | 45 | 146 | 61 | 15 | 1.36 | 2.39 | | | (33.3%) | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------|------------|-----|----|------|------|--------|---------|---------|-----------|
| 河北 東路 | 澧州 | 5 | 17 | 3 | 3 | 0.60 | 5.67 | 36,637 | 19,352 | |
| | 滄州 | 5 | 33 | 21 | 0 | 4.20 | 1.57 | 52,376 | 4,535 | |
| | 冀州 | 6 | 16 | 10 | 1 | 1.67 | 1.60 | 42,000 | 9,136 | |
| | 瀛州 | 2 | 11 | 8 | 0 | 4.00 | 1.38 | 31,601 | 1,726 | |
| | 博州 | 4 | 14 | 10 | 0 | 2.50 | 1.40 | 49,854 | 23,038 | |
| | 棣州 | 3 | 13 | 10 | 0 | 3.33 | 1.30 | 30,580 | 8,363 | |
| | 莫州 | 1 | 8 | 1* | 0 | 1.00 | 8.00 | 13,000 | 436 | 寨 2 |
| | 雄州 | 2 | 7 | 0* | 2 | 0 | ∞ | 8,707 | 262 | 寨 8 |
| | 霸州 | 2 | 5 | 1* | 1 | 0.50 | 5.00 | 14,102 | 957 | 寨 8 |
| | 德州 | 2 | 10 | 10 | 0 | 5.00 | 1.00 | 18,811 | 18,027 | |
| | 濱州 | 2 | 5 | 11 | 0 | 5.50 | 0.45 | 14,612 | 31,721 | |
| | 恩州 | 3 | 12 | 14 | 0 | 4.67 | 0.86 | 32,535 | 22,049 | |
| | 永靜軍 | 3 | 11 | 8 | 1 | 2.67 | 1.38 | 20,273 | 13,112 | |
| | 乾寧軍 (寨 6) | 2 | 1 | 0 | 1.00 | 2.00 | 5.623 | 1,193 | | |
| | 信安軍 (寨 6) | | | | | | | 318 | 391 | |
| | 保定軍 (寨 2) | | | | | | | 828 | 233 | |
| ◎ | 41 | 164 | 108 | 8 | 2.63 | 1.52 | | | (19.5%) | |
| 河北 西路 | 眞定府 | 8(寨 1) | 39 | 5 | 5 | 0.63 | 7.80 | 69,753 | 12,854 | |
| | 相州 | 4 | 8 | 3* | 1 | 0.75 | 2.67 | 26,753 | 21,093 | 務 1 |
| | 定州 | 7(寨 1) | 23 | 3 | 5 | 0.43 | 7.67 | 44,530 | 14,730 | |
| | 邢州 | 5 | 18 | 6 | 1 | 1.20 | 3.00 | 38,936 | 21,697 | |
| | 懷州 | 2 | 13 | 5 | 0 | 2.50 | 2.60 | 19,234 | 13,682 | |
| | 衛州 | 4 · 1 | 12 | 4* | 1 | 0.80 | 3.00 | 33,843 | 13,873 | 場 1 |
| | 洛州 | 4 | 12 | 10 | 0 | 2.50 | 1.20 | 25,107 | 10,652 | |
| | 深州 | 5 | 18 | 0 | 5 | 0 | ∞ | 33,518 | 5,250 | |
| | 磁州 | 3 | 6 | 8* | 0 | 2.67 | 0.75 | 20,024 | 9,101 | 務 1 |
| | 祁州 | 2 | 10 | 1 | 1 | 0.50 | 10.00 | 21,268 | 224 | |
| | 趙州 | 4 | 18 | 4 | 0 | 1.00 | 4.50 | 35,481 | 6,256 | |
| | 保州 | 1 | 8 | 0* | 1 | 0 | ∞ | 21,453 | 3,420 | 寨 1 |
| | 安肅軍 | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 5,097 | 1,004 | |
| | 永寧軍 | 1 | 7 | 1 | 0 | 1.00 | 7.00 | 13,582 | 9,057 | |
| 廣信軍 | 1 | 4 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 3,173 | 180 | | |
| 順安軍 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 6,106 | 3,831 | | |
| ◎ | 54 | 201 | 50 | 23 | 0.93 | 4.02 | | | (42.5%) | |
| 陝西路 永興軍路 | 京兆府 | 14 · 2 | 43 | 17 | 4 | 1.06 | 2.53 | 158,072 | 65,240 | |
| | 河中府 | 7 | 16 | 5 | 5 | 0.71 | 3.20 | 49,351 | 5,516 | |
| | 陝州 | 7 · 2 | 25 | 9 | 3 | 1.00 | 2.78 | 32,840 | 11,552 | |
| | 延州 | 7 · 1(城 2) | 12 | 3* | 4 | 0.38 | 4.00 | 34,918 | 1,349 | 寨 54, 堡 1 |
| | 同州 | 6 · 1 | 30 | 6 | 2 | 0.86 | 5.00 | 69,044 | 10,556 | |
| | 華州 | 5 · 2 | 30 | 8 | 0 | 1.14 | 3.75 | 68,344 | 11,836 | |
| | 耀州 | 7 · 1 | 32 | 2 | 5 | 0.25 | 16.00 | 19,802 | 6,108 | |
| | 邠州 | 4 | 28 | 5 | 0 | 1.25 | 5.60 | 53,652 | 60,185 | |
| 鄆州 | 4 | 12 | 2 | 2 | 0.50 | 6.00 | 19,442 | 7,674 | | |

| | | | | | | | | | | | |
|----------|------|---------------|-----|-----|-----------------|------|------|-------|---------|---------|---------|
| 陝西路·永興軍路 | 解州 | 3 | | 5 | 1 | 2 | 0.33 | 5.00 | 25,004 | 3,931 | |
| | 慶州 | 3 | | 17 | 11 [■] | 0 | 3.67 | 1.55 | 12,638 | 6,382 | 寨6,堡3 |
| | 統州 | 3 | | 3 | 2 [■] | 1 | 0.67 | 1.50 | 10,606 | 6,965 | 監2 |
| | 商州 | 5 | | 9 | 7 [■] | 2 | 1.40 | 1.29 | 18,089 | 62,336 | 場5,監1 |
| | 寧州 | 4 | | 22 | 6 | 0 | 1.50 | 3.67 | 33,268 | 4,106 | |
| | 坊州 | 2 | | 8 | 2 [■] | 1 | 1.00 | 4.00 | 8,236 | 5,403 | 場1 |
| | 丹州 | 1 | | 9 | 2 | 0 | 2.00 | 4.50 | 7,988 | 1,847 | |
| | 環州 | 1 | | 3 | 4 [■] | 0 | 4.00 | 0.75 | 4,199 | 2,384 | 寨8 |
| | 保安軍 | (寨2)(堡1) | | | | | | | 919 | 122 | |
| ○ | 92 | | 304 | 92 | 31 | 1.00 | 3.30 | | | (33.6%) | |
| 陝西路·秦鳳路 | 鳳翔府 | 10·1 | | 48 | 14 [■] | 3 | 1.27 | 3.43 | 127,018 | 44,511 | 務1 |
| | 秦州 | 4·1(堡2,寨7) | | 8 | 11 | 0 | 2.20 | 0.73 | 43,236 | 23,808 | |
| | 涇州 | 3 | | 20 | 1 | 2 | 0.33 | 20.00 | 18,218 | 7,772 | |
| | 熙州 | 1(寨1,堡8) | | | | 1 | — | — | 199 | 1,157 | |
| | 隴州 | 4 | | 16 | 6 | 1 | 1.50 | 2.67 | 15,702 | 9,072 | |
| | 成州 | 2 | | 4 | 3 [■] | 0 | 1.50 | 1.33 | 12,000 | 2,659 | 場1 |
| | 鳳州 | 3 | | 7 | 12 [■] | 0 | 4.00 | 0.58 | 20,294 | 17,900 | 監1 |
| | 岷州 | 2·1(寨5,堡3) | | 3 | 10 | 0 | 3.33 | 0.30 | 29,960 | 7,761 | |
| | 渭州 | 5 | | 17 | 6 [■] | 1 | 1.20 | 2.83 | 26,640 | 10,996 | 場3 |
| | 原州 | 2(鎮2,寨5) | | 7 | 1 | 1 | 0.50 | 7.00 | 16,840 | 5,561 | |
| | 階州 | 2 | | 7 | 10 [■] | 0 | 5.00 | 0.70 | 23,936 | 17,725 | 寨3 |
| | 河州 | (城1,寨2,堡2,閘1) | | | | | | | 295 | 296 | |
| | 蘭州 | (寨1,堡4) | | | | | | | 419 | 224 | |
| | 鎮戎軍 | (城1,寨7,堡2) | | | | | | | 1,434 | 2,696 | |
| | 德順軍 | (城1,寨5,堡1) | | | | | | | 7,589 | 9,152 | |
| | 通遠軍 | (鎮1,城1,寨6,堡1) | | | | | | | 1,390 | 3,337 | |
| | ○ | 41 | | 137 | 74 | 9 | 1.80 | 1.85 | | | (21.9%) |
| 河東路 | 太原府 | 9·2 | | 55 | 2 [■] | 7 | 0.18 | 27.50 | 78,566 | 27,572 | 寨2 |
| | 潞州 | 7 | | 24 | 2 | 5 | 0.29 | 12.00 | 39,378 | 13,167 | |
| | 晉州 | 9·(務2) | | 28 | 3 | 6 | 0.33 | 9.33 | 79,476 | 4,598 | |
| | 永安軍 | 1 | | 1 | 0 [■] | 1 | 0 | ∞ | 1,262 | 78 | 寨3,堡4 |
| | 麟州 | 3 | | | | | | | 3,790 | 196 | 寨3,堡7 |
| | 絳州 | 7 | | 32 | 1 [■] | 3 | 0.14 | 32.00 | 55,522 | 6,535 | 監1 |
| | 代州 | 4 | | 19 | 2 [■] | 3 | 0.50 | 9.50 | 18,779 | 11,125 | 寨14 |
| | 開州 | 7 | | 26 | 1 [■] | 6 | 0.14 | 26.00 | 37,836 | 1,121 | 務1,閘3 |
| | 忻州 | 1 | | 21 | 0 [■] | 1 | 0 | ∞ | 12,471 | 4,751 | 寨3,閘1 |
| | 汾州 | 4 | | 34 | 1 [■] | 3 | 0.25 | 34.00 | 41,655 | 11,482 | 監1 |
| | 澤州 | 6 | | 14 | 1 | 5 | 0.17 | 14.00 | 38,991 | 12,708 | |
| | 憲州 | 1 | | 3 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 2,741 | 811 | |
| | 嵐州 | 3 | | 12 | 0 [■] | 3 | 0 | ∞ | 10,146 | 1,313 | 寨1,堡1 |
| | 石州 | 5 | | 12 | 0 [■] | 5 | 0 | ∞ | 12,624 | 2,179 | 寨6 |
| | 遼州 | 1 | | 2 | 3 [■] | 0 | 3.00 | 0.67 | 5,578 | 1,725 | 寨1 |
| 豐州 | (寨2) | | | | | | | 22 | 136 | | |

| | | | | | | | | | | |
|----------------------------|-------------|-------|-----|-----------------|------|-------|-------|---------|---------|---------|
| 河 東 路 | 威勝軍 | 4 | 12 | 2 | 2 | 0.50 | 6.00 | 16,190 | 7,916 | |
| | 平定軍 | 2 | 8 | 0 [■] | 2 | 0 | ∞ | 7,176 | 257 | 寨3 |
| | 岢嵐軍 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 814 | 1,692 | |
| | 寧化軍 (寨1) | | | | | | | 476 | 640 | |
| | 火山軍 (寨1) | | 2 | 0 | | | | 1,304 | 571 | |
| | 保德軍 (津2) | | | | | | | 611 | 217 | |
| | ◎ | 77 | 307 | 18 | 54 | 0.23 | 17.06 | | | (70.1%) |
| 淮 南 路 · 東 路 | 揚州 | 3 | 63 | 13 | 0 | 4.33 | 4.85 | 29,077 | 24,855 | |
| | 亳州 | 7 | 51 | 8 | 0 | 1.14 | 6.38 | 86,811 | 34,468 | |
| | 宿州 | 4 | 16 | 9 | 1 | 2.25 | 1.78 | 57,818 | 48,006 | |
| | 楚州 | 5 | 23 | 7 [■] | 1 | 1.40 | 3.29 | 59,727 | 20,018 | 場9 |
| | 海州 | 4 | 6 | 2 | 2 | 0.50 | 3.00 | 26,983 | 26,060 | |
| | 泰州 | 4 | 15 | 6 | 0 | 1.50 | 2.50 | 37,339 | 7,102 | |
| | 泗州 | 3 | 17 | 9 | 0 | 3.00 | 1.89 | 35,725 | 17,240 | |
| | 滁州 | 3 | 14 | 3 | 1 | 1.00 | 4.67 | 29,922 | 10,363 | |
| | 真州 | 2 | 16 | 3 | 0 | 1.50 | 5.33 | 16,790 | 17,068 | |
| | 通州 | 2 | 6 | 2 | 0 | 1.00 | 3.00 | 28,692 | 3,247 | |
| | ◎ | 37 | 227 | 62 | 5 | 1.68 | 3.66 | | | (13.5%) |
| 淮 南 路 · 西 路 | 壽州 | 5 | 43 | 29 | 0 | 5.80 | 1.48 | 56,003 | 72,705 | |
| | 廬州 | 3 | 18 | 14 | 0 | 4.67 | 1.29 | 60,136 | 30,352 | |
| | 蘄州 | 4 | 17 | 5 | 1 | 1.25 | 3.40 | 74,017 | 38,356 | |
| | 和州 | 3 | 16 | 15 [■] | 0 | 5.00 | 1.07 | 26,163 | 13,126 | 寨3 |
| | 舒州 | 5 · 1 | 19 | 17 | 1 | 2.83 | 1.12 | 79,050 | 47,434 | |
| | 濠州 | 2 | 14 | 5 | 0 | 2.50 | 2.80 | 31,837 | 15,477 | |
| | 光州 | 4 | 23 | 3 | 3 | 0.75 | 7.67 | 25,296 | 40,662 | |
| | 黃州 | 3 | 18 | 14 | 0 | 4.67 | 1.29 | 32,933 | 49,005 | |
| | 無為軍 | 3 | 26 | 10 [■] | 0 | 3.33 | 2.60 | 40,258 | 11,629 | 場1 |
| | ◎ | 33 | 194 | 112 | 5 | 3.39 | 1.73 | | | (15.1%) |
| 兩 浙 路 | 杭州 | 9 | 88 | 12 [■] | 4 | 1.33 | 7.33 | 164,293 | 38,510 | 場2, 監2 |
| | 越州 | 8 | 132 | 9 | 4 | 1.13 | 14.67 | 152,585 | 337 | |
| | 蘇州 | 5 | 66 | 4 | 3 | 0.80 | 16.50 | 158,767 | 15,202 | |
| | 潤州 | 3 | 29 | 5 [■] | 1 | 1.67 | 5.80 | 33,318 | 21,480 | 寨1 |
| | 湖州 | 6 | 62 | 6 | 1 | 1.00 | 10.33 | 134,612 | 10,509 | |
| | 婺州 | 7 | 66 | 1 [■] | 6 | 0.14 | 66.00 | 129,751 | 8,346 | 場1 |
| | 明州 | 6 | 39 | 3 [■] | 3 | 0.50 | 13.00 | 57,874 | 57,334 | 場1, 監1 |
| | 常州 | 5 | 93 | 10 | 0 | 2.00 | 9.30 | 90,852 | 45,508 | |
| | 溫州 | 4 | 41 | 7 [■] | 1 | 1.75 | 5.86 | 80,489 | 41,427 | 場4 |
| | 台州 | 5 | 43 | 9 [■] | 2 | 1.80 | 4.78 | 120,481 | 25,232 | 場2 |
| | 處州 | 6 | 32 | 3 [■] | 3 | 0.50 | 10.67 | 20,363 | 68,995 | 場2 |
| | 衢州 | 5 | 57 | 2 [■] | 3 | 0.40 | 28.50 | 69,245 | 17,552 | 場2 |
| | 睦州 | 6 · 1 | 49 | 0 | 6 | 0 | ∞ | 66,915 | 9,836 | |
| | 秀州 | 4 | 62 | 4 [■] | 1 | 1.00 | 15.50 | 139,137 | 0 | 場4, 監2 |
| ◎ | 80 | 859 | 75 | 38 | 0.94 | 11.45 | | | (47.5%) | |

| | | | | | | | | | | |
|----------------------------|-----------------------|----------|-------|-----------------|------|------|---------|---------|---------|-----------------------|
| 江 南 路 · 東 路 | 江寧州 | 5 | 86 | 15 | 0 | 3.00 | 5.73 | 118,597 | 49,865 | |
| | 宜州 | 6 | 63 | 4 | 4 | 0.67 | 15.75 | 120,959 | 21,853 | |
| | 歙州 | 6 | 53 | 1 | 5 | 0.17 | 53.00 | 103,716 | 2,868 | |
| | 江州 | 5·(1) | 37 | 4 | 3 | 0.80 | 9.25 | 75,888 | 19,496 | [鑄錢] |
| | 池州 | 6·(1) | 34 | 8 | 2 | 1.33 | 4.25 | 106,657 | 24,708 | [◇] |
| | 饒州 | 6·(1) | 56 | 2 [*] | 4 | 0.33 | 28.00 | 153,605 | 34,590 | 場1 [◇] |
| | 信州 | 6 | 52 | 2 [*] | 4 | 0.33 | 26.00 | 109,410 | 23,207 | 場4 |
| | 太平州 | 3 | 24 | 11 | 1 | 3.67 | 2.18 | 41,720 | 9,277 | |
| | 南康軍 | 3 | 32 | 6 | 2 | 2.00 | 5.33 | 55,527 | 14,969 | |
| | 広徳軍 | 2 | 14 | 1 | 1 | 0.55 | 14.00 | 40,146 | 253 | |
| ◎ | 48(3) | 451 | 54 | 26 | 1.13 | 8.35 | | | (54.1%) | |
| 江 南 路 · 西 路 | 洪州 | 7 | 81 | 15 | 2 | 2.14 | 5.40 | 180,760 | 75,474 | |
| | 虔州 | 10 | 50 | 4 [*] | 9 | 0.40 | 12.50 | 81,621 | 16,507 | 場6 |
| | 吉州 | 8 | 60 | 6 | 4 | 0.75 | 10.00 | 130,767 | 142,630 | |
| | 袁州 | 4 | 34 | 6 [*] | 1 | 1.50 | 5.67 | 79,207 | 50,477 | 務1 |
| | 撫州 | 4 | 27* | 4 | 3 | 1.00 | 6.75 | 93,915 | 61,921 | |
| | 筠州 | 3 | 40 | 0 | 3 | 0 | ∞ | 36,134 | 43,457 | |
| | 興國軍 | 3 | 13 | 11 [*] | 1 | 3.67 | 1.18 | 40,970 | 12,890 | 監1,場1,務1 |
| | 南安軍 | 3 | 12 | 3 [*] | 1 | 1.00 | 4.00 | 34,024 | 1,775 | 務2 |
| | 臨江軍 | 3 | 25 | 3 | 1 | 1.00 | 8.33 | 68,286 | 21,110 | |
| | 建昌軍 | 2 | 16 | 0 | 2 | 0 | ∞ | 89,582 | 25,626 | |
| ◎ | 47 | 358 | 52 | 27 | 1.11 | 6.88 | | | (57.4%) | |
| 荆 湖 · 南 路 | 潭州 | 11 | 80 | 5 [*] | 6 | 0.45 | 16.00 | 175,660 | 182,164 | 場3 |
| | 衡州 | 5 | 35 | 7 [*] | 2 | 1.40 | 5.00 | 74,081 | 105,963 | 監1,場1 |
| | 道州 | 3 | 35 | 1 [*] | 2 | 0.33 | 35.00 | 23,036 | 13,646 | 場2 |
| | 永州 | 3 | 27 | 0 [*] | 3 | 0 | ∞ | 58,625 | 28,576 | 寨1 |
| | 郴州 | 4 | 28 | 0 [*] | 4 | 0 | ∞ | 21,912 | 15,076 | 坑5 |
| | 邵州 | 4 | 26 | 2 [*] | 2 | 0.50 | 13.00 | 61,841 | 35,393 | 寨9,堡3 |
| | 全州 | 2 | 9 | 7 [*] | 0 | 3.50 | 1.29 | 29,648 | 4,737 | 寨7 |
| | 桂陽監 | 2 | 22 | 1 [*] | 1 | 0.50 | 22.00 | 38,066 | 9,982 | 坑9 |
| | ◎ | 34 | 262 | 23 | 17 | 0.68 | 11.394 | | | (50%) |
| | 荆 湖 · 北 路 | 江陵府 | 8 | 59 | 22 | 0 | 2.75 | 2.68 | 56,314 | 133,608 |
| 鄂州 | | 8·(1) | 44 | 3 | 6 | 0.38 | 14.67 | 53,150 | 72,107 | [鑄銅錢] |
| 安州 | | 5 | 8 | 10 | 1 | 2.00 | 0.80 | 25,524 | 35,102 | |
| 鼎州 | | 3 | 20 | 2 | 2 | 0.67 | 10.00 | 33,064 | 8,096 | |
| 澧州 | | 4 | 15 | 2 [*] | 3 | 0.50 | 7.50 | 19,403 | 39,276 | 寨6 |
| 峽州 | | 4 | 53 | 0 [*] | 4 | 0 | ∞ | 12,609 | 32,887 | 寨6,場1,井2 |
| 岳州 | | 5 | 21 | 3 [*] | 4 | 0.60 | 7.00 | 50,605 | 46,079 | 寨2,場1 |
| 郴州 | | 4(城1,塞3) | 13 | 1 [*] | 3 | 0.25 | 13.00 | 5,669 | 3,244 | |
| 沅州 | | 3(寨1) | 20(*) | 0 | — | 0 | ∞ | 7,051 | 3,514 | (*)舖 |
| 誠州 | | 1 | (*) | 0 [*] | — | — | — | 9,734 | 741 | (*) 梁山關4105印 署3,保3 |
| ◎ | 45 | 253 | 43 | 23 | 0.96 | 5.88 | | | | |
| 成都府 | 9 | 131 | 19 | 1 | 2.11 | 6.89 | 119,388 | 49,710 | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-------------|-----|-----------------|---|-------|-------|---------|--------|------------------------------------|
| 成都府 | 眉州 | 4 | 50 | 18 [※] | 0 | 4.50 | 2.78 | 48,179 | 27,950 | 場 1 |
| | 蜀州 | 5 | 83 | 10 [※] | 0 | 2.00 | 8.30 | 65,599 | 13,328 | 場 3 |
| | 彭州 | 4 | 87 | 5 [※] | 2 | 1.25 | 17.40 | 57,418 | 14,999 | 寨 1, 場 6 |
| | 綿州 | 8 | 94 | 27 [※] | 0 | 3.38 | 3.48 | 106,064 | 17,085 | 寨 2, 場 2 |
| | 漢州 | 4 | 73 | 15 [※] | 0 | 3.75 | 4.87 | 61,697 | 16,843 | 場 2 |
| | 嘉州 | 5・(1) | 50 | 17 | 0 | 3.40 | 2.94 | 17,720 | 52,826 | [鑄鐵線]場 1 |
| | 邛州 | 6・(1) | 44 | 11 [※] | 0 | 1.83 | 4.00 | 63,049 | 17,081 | [鑄鐵線]場 ³ 場 ¹ |
| | 黎州 | 1 | 5 | 7 | 0 | 7.00 | 0.71 | 1,797 | 915 | |
| | 雅州 | 4(場 1) | 22 | 4 [※] | 2 | 1.00 | 5.50 | 13,461 | 9,526 | 寨 2, 場 4 |
| | 茂州 | 2(寨 1, 閘 1) | 2 | 1 | 1 | 0.50 | 2.00 | 318 | 239 | |
| 路 | 簡州 | 2 | 19 | 15 | 0 | 7.50 | 1.27 | 32,638 | 7,576 | |
| | 威州 | 2 | 4 | 0 | 2 | 0 | ∞ | 1,286 | 383 | |
| | 陵井監 | 2・(井 1) | 16 | 14 | 0 | 7.00 | 1.14 | 31,909 | 15,419 | |
| | ◎ | 58(6) | 680 | 163 | 8 | 2.81 | 4.17 | | | (13.8%) |
| 梓州 | 梓州 | 9 | 65 | 37 [※] | 1 | 4.11 | 1.76 | 58,707 | 22,464 | 井78, 冶 5 |
| | 遂州 | 5 | 46 | 30 | 0 | 6.00 | 1.53 | 31,651 | 19,536 | |
| | 果州 | 3 | 24 | 35 | 0 | 11.67 | 0.69 | 38,333 | 14,085 | |
| | 賈州 | 4 | 37 | 25 [※] | 0 | 6.25 | 1.48 | 17,879 | 21,586 | 井84, 冶 1 |
| | 普州 | 3 | 29 | 32 | 0 | 10.67 | 0.91 | 9,122 | 20,378 | |
| | 昌州 | 3 | 15 | 38 | 0 | 12.67 | 0.39 | 5,822 | 28,641 | |
| | 戎州 | 2 | 18 | 2 [※] | 1 | 1.00 | 9.00 | 12,833 | 4,186 | 井 1 |
| | 潼州 | 3(監 2, 城 1) | 3 | 5 [※] | 1 | 1.67 | 0.60 | 2,647 | 32,417 | 寨11 |
| | 合州 | 5 | 29 | 45 | 0 | 9.00 | 0.64 | 18,013 | 18,621 | |
| | 榮州 | 4 | 13 | 14 | 0 | 3.50 | 0.93 | 4,911 | 11,754 | |
| 路 | 渠州 | 3 | 21 | 38 [※] | 0 | 12.67 | 0.55 | 10,910 | 9,894 | 井 1 |
| | 懷安軍 | 2 | 29 | 10 | 0 | 5.00 | 2.90 | 24,141 | 3,184 | |
| | 広安軍 | 3 | 20 | 28 | 0 | 9.33 | 0.71 | 10,521 | 14,751 | |
| | 富順監 | (續13, 井 1) | — | — | — | — | — | 2,991 | 8,193 | |
| | ◎ | 49 | 349 | 339 | 3 | 6.92 | 1.03 | | | (6.1%) |
| 利州 | 興元府 | 4(場 1) | 23 | 9 [※] | 0 | 2.25 | 2.56 | 48,567 | 9,161 | 場 1, 務 1 |
| | 利州 | 4 | 39 | 9 | 0 | 2.25 | 4.33 | 5,535 | 16,644 | |
| | 洋州 | 3 | 47 | 1 | 2 | 0.33 | 47.00 | 32,159 | 27,138 | |
| | 閬州 | 7 | 41 | 27 | 0 | 3.86 | 1.52 | 36,536 | 17,701 | |
| | 劍州 | 6 | 53 | 17 [※] | 0 | 2.83 | 3.12 | 20,659 | 7,586 | 寨 6 |
| | 巴州 | 5 | 44 | 15 | 0 | 3.00 | 2.93 | 8,605 | 23,261 | |
| | 文州 | 1 | 9 | 5 [※] | 0 | 5.00 | 1.80 | 11,535 | 573 | 寨 9, 務 1 |
| | 興州 | 2 | 10 | 2 [※] | 1 | 1.00 | 5.00 | 3,192 | 10,052 | 場 1 |
| | 蓬州 | 4 | 21 | 31 | 0 | 7.75 | 0.68 | 15,212 | 20,596 | |
| | 龍州 | 2 | 6 | 2 [※] | 1 | 1.00 | 3.00 | 3,796 | 11,426 | 寨 1 |
| 路 | 三泉縣 | 續 2 | 4 | 0 | 2 | 0 | ∞ | 3,337 | 2,977 | |
| | 劍門關 | | | | | | | | | |
| | ◎ | 40 | 297 | 118 | 6 | 2.95 | 2.52 | | | (15%) |
| | 夔州 | 2 | 19 | 0 | 2 | 0 | ∞ | 7,497 | 3,716 | |

| | | | | | | | | | | |
|----|--------|----------|-----|-----------------|----|------|-------|---------|---------|--------------|
| 夔 | 黔州 | 2 | 9 | 6 [※] | 0 | 3.00 | 1.50 | 790 | 2,058 | 寨33 |
| | 達州 | 5(院1) | 36 | 37 [※] | 1 | 7.40 | 0.97 | 6,476 | 40,165 | 場8 |
| | 施州 | 2 | 15 | 0 [※] | 2 | 0 | ∞ | 9,323 | 9,781 | 寨8 |
| | 忠州 | 4(尉司1) | 23 | 0 | 4 | 0 | ∞ | 12,137 | 23,713 | |
| | 萬州 | 2 | 17 | 2 | 1 | 1.00 | 8.50 | 6,457 | 14,098 | |
| | 開州 | 2 | 18 | 2 | 1 | 1.00 | 9.00 | 8,704 | 16,296 | |
| | 涪州 | 3 | 14 | 2 [※] | 2 | 0.67 | 7.00 | 2,570 | 15,878 | 場1 |
| | 澧州 | 3 | 16 | 23 [※] | 0 | 7.67 | 0.70 | 11,423 | 29,657 | 寨1,堡2 |
| | 雲安軍 | 1·(1) | 13 | 2 [※] | 0 | 2.00 | 6.50 | 4,535 | 6,543 | 場1,井1 |
| | 梁山軍 | 1 | 5 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 3,623 | 8,654 | |
| 路 | 南平軍 | 2 | 16 | 0 [※] | 2 | 0 | ∞ | 617 | 3,020 | 寨6,堡1 |
| | 大寧監 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1.00 | 4.00 | 1,301 | 5,329 | |
| | ○ | 30 | 205 | 75 | 16 | 2.50 | 2.73 | | | (53.3%) |
| 福 | 福州 | 12 | 65 | 5 [※] | 7 | 0.42 | 13.00 | 114,636 | 96,916 | 倉1,場7,坑1 |
| | 建州 | 6·(1) | 35 | 2 [※] | 5 | 0.33 | 17.50 | 69,126 | 117,440 | (鑄錢)寨6,坑1,監1 |
| | 泉州 | 7 | 33 | 0 [※] | 7 | 0 | ∞ | 141,199 | 60,207 | 塩亭290,場7 |
| | 南劍州 | 5 | 18 | 5 [※] | 3 | 1.00 | 3.60 | 59,355 | 60,206 | 寨1,場14,茶焙5 |
| | 汀州 | 4 | 15 | 1 [※] | 3 | 0.25 | 15.00 | 66,157 | 15,297 | 場4,務3,坑2 |
| | 漳州 | 4 | 13 | 4 [※] | 2 | 1.00 | 3.25 | 35,920 | 64,549 | 塩团4,場2 |
| | 邵武軍 | 4 | 15 | 2 [※] | 2 | 0.50 | 7.50 | 58,590 | 29,400 | 場13 |
| | 興化軍 | 3 | 13 | 5 [※] | 1 | 1.67 | 2.60 | 35,153 | 20,084 | 塩倉1 |
| | ○ | 45 | 207 | 24 | 30 | 0.53 | 8.63 | | | (66.7%) |
| 廣 | 廣州 | 7 | 30 | 9 [※] | 4 | 1.29 | 3.33 | 64,796 | 78,465 | 場17,槽3 |
| | 韶州 | 4 | 27 | 2 [※] | 2 | 0.50 | 13.50 | 53,501 | 3,937 | 監1,場11 |
| | 循州 | 3 | 7 | 1 [※] | 2 | 0.33 | 7.00 | 25,634 | 21,558 | 場6 |
| | 潮州 | 2 | 11 | 7 [※] | 0 | 3.50 | 1.57 | 56,912 | 17,770 | 務3,場4 |
| | 連州 | 3 | 22 | 2 [※] | 2 | 0.67 | 11.00 | 30,438 | 6,504 | 場2 |
| | 賀州 | 3 | 9 | 0 [※] | 3 | 0 | ∞ | 33,938 | 6,267 | 場1 |
| | 封州 | 2 | 8 | 0 [※] | 2 | 0 | ∞ | 1,726 | 1,013 | 場1 |
| | 端州 | 2 | 8 | 2 [※] | 0 | 1.00 | 4.00 | 11,269 | 13,834 | 場1 |
| | 新州 | 1 | 5 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 8,480 | 5,167 | |
| | 康州 | 2 | 8 | 3 [※] | 0 | 1.50 | 2.67 | 8,979 | — | 場3 |
| | 南恩州 | 2 | 9 | 0 [※] | 2 | 0 | ∞ | 5,748 | 21,466 | 場2 |
| | 梅州 | 1 | 5 | 4 | 0 | 4.00 | 1.25 | 5,824 | 6,548 | 場4 |
| | 南雄州 | 2 | 10 | 1 | 1 | 0.50 | 10.00 | 18,686 | 1,653 | |
| | 英州 | 2 | 14 | 5 [※] | 0 | 2.50 | 2.80 | 6,690 | 1,329 | 場5 |
| | 惠州 | 4 | 10 | 0 [※] | 4 | 0 | ∞ | 23,365 | 37,756 | 場15 |
| | ○ | 40 | 183 | 36 | 23 | 0.90 | 5.08 | | | (57.5%) |
| | 廣南路·西路 | 桂州 | 10 | 26 | 11 | 4 | 1.10 | 2.36 | 56,791 | 9,553 |
| 容州 | | 3 | 15 | 1 | 2 | 0.33 | 15.00 | 10,229 | 3,547 | |
| 邕州 | | 2(寨1,場1) | 14 | 4 [※] | 1 | 2.00 | 3.50 | 4,870 | 418 | |
| 象州 | | 3 | 11 | 0 | 3 | 0 | ∞ | 5,435 | 3,283 | |
| 融州 | | 1(寨1,堡1) | 10 | 2 [※] | 0 | 2.00 | 5.00 | 2,818 | 2,845 | 寨1,場1,坑1 |

| | | | | | | | | | | |
|---|-----|-------|----------------|----------------|------|-------|-------|--------|-------|----------|
| 廣 南 路 西 路 | 昭州 | 4 | 14 | 10 | 0 | 2.50 | 1.40 | 15,760 | 90 | |
| | 梧州 | 1 | 11 | 3 | 0 | 3.00 | 3.67 | 3,914 | 1,821 | |
| | 藤州 | 2 | 12 | 0 [*] | 2 | 0 | ∞ | 5,070 | 1,312 | 場 1 |
| | 裴州 | 1 | 7 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 4,553 | 3,486 | |
| | 潯州 | 1 | 4 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 2,229 | 3,912 | |
| | 貴州 | 1 | 4 | 11 | 0 | 11.00 | 0.36 | 4.022 | 3.438 | |
| | 柳州 | 3 | 10 | 0 | 3 | 0 | ∞ | 7,294 | 1,436 | |
| | 宜州 | 5·(2) | 18 | 7 [*] | 4 | 1.40 | 2.57 | 11,550 | 4,273 | 寨 6, 場 1 |
| | 賓州 | 3 | 9 | 1 | 2 | 0.33 | 9.00 | 4,612 | 3,008 | |
| | 橫州 | 1 | 5 | 0 | 1 | 0 | ∞ | 3,172 | 279 | |
| | 化州 | 2 | 7 | 1 | 1 | 0.50 | 7.00 | 6.018 | 3.255 | |
| | 高州 | 3 | 21 | 0 [*] | 3 | 0 | ∞ | 8,737 | 3,029 | 監 1, 場 1 |
| | 雷州 | 1 | 5 | 0 [*] | 1 | 0 | ∞ | 4,272 | 9,512 | 寨 1 |
| | 白州 | 1 | 6 | 1 | 0 | 1.00 | 6.00 | 3,727 | 862 | |
| | 欽州 | 2 | 7 | 1 | 1 | 0.50 | 7.00 | 10,295 | 257 | |
| | 鬱林州 | 2 | 7 | 1 | 1 | 0.50 | 7.00 | 3,542 | 2,003 | |
| 廉州 | 2 | 10 | 1 [*] | 1 | 0.50 | 10.00 | 6,601 | 891 | 寨 2 | |
| 瓊州 | 5 | 18 | 1 [*] | 4 | 0.20 | 18.00 | 8,433 | 530 | 槽 2 | |
| 昌化軍 | 3 | 5 | 0 | 3 | 0 | ∞ | 745 | 90 | | |
| 萬安軍 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 | ∞ | 120 | 97 | | |
| 朱崖監 (鎮 2) | 2 | 2 | 0 | — | 0 | ∞ | 340 | 11 | | |
| ◎ | 64 | 260 | 56 | 41 | 0.88 | 4.64 | | | (64%) | |

における鎮の比重を調べるために、県数(A)、郷数(B)、鎮数(C)、無鎮県数 \parallel 鎮の無い県数(D)の相關數値を求めた。それは、C—Aは一県当りの鎮数、B—Cは一鎮当りいくつの郷があるか、D—Aは府州軍監の全県数の中で鎮の無い県数ほどの程度の割合(%)か、以上が計算されよう。これらも示すものとして第3表を作成しよう。なお、各路末の◎印欄は各路ごとの県・監数、郷数、鎮数、無鎮県数の合計と、これら計算したC—A、B—C、D—A \times 100等の數値である。

各數字や數値の意味を考えてみよう。無鎮県数(D)——鎮の無い県の數、これはわかり易いが、數が多いほど鎮の無い県數が多く、その府州軍監の鎮の發達が悪いことを示そう。C—A……一県当りの鎮數を意味するが、數値1は一県一個の鎮、二・五〇は一県二個半の鎮を示し、逆に〇・五〇は一県半個、つまり二県で一個の鎮のあることを示す。この數が一・〇〇以上數が多いほどその府州軍監の鎮の數量的發達が確認される。B—C……一鎮当りいくつの郷が属しているかを示し、數が多いほど一鎮当りの郷數 \parallel 農村部が多いことになる。ただし、郷數はそもそも府州縣によつて一定の規準があるわけではなく、郷數が多い府州縣も少ない府州縣もある。例えば、華北の京東路東西や同南路、北路、河北路東西、陝西秦鳳路などの郷數は少なく、淮南路東西、兩浙路、江南路東西、荆湖南北路、成都府、梓州路、利州路、夔州路などが多い。成都府は五八縣で六八〇、一県当り一一・七郷もある。少ない方は京東東路で一県当り三郷、同西路で三・七郷、同南路で三郷、同北路で三・二郷などとなっている。故にB—Cの數値だけをみて、その府州の鎮の發達の具合を判断することはできない。なお、參考に挙げた『元豐九域志』記載の各府州軍監ごとの主戸數、客戸數については、¹²⁾それも各數値、數字との連関を發見できなかったので割愛する。どうも、主戸數・客戸數の多少と鎮の發達とは關係がないようである。ところで、第3表から各路各地方の比較を行うには一覽できない不便さがあり、また、この第3表を第2表と對照するのも不便であるので、第3表を基にして、第2表の北宋代の地域順に見合う第4表を作成してみよう。

| $\frac{D}{A} \times 100$ | 寨堡 | 關倉 務監 | 井治 場坑 |
|--------------------------|-----|----------|----------|
| ○31.5% | 19 | 2 | 1 |
| 50.7 | 4 | 2 | |
| ○24.1 | | 1 | 1 |
| 70.1 | 48 | 7 | |
| ○30.1 | 75 | 5 | 10 |
| ○14.3 | 3 | | 10 |
| 47.5 | 1 | 5 | 18 |
| 54.1 | | | 5 |
| 57.4 | | 5 | 7 |
| 50.6 | 40 | 6 | 24 |
| ○18.6 | 86 | 3 | 205 |
| 66.7 | 1 | 6 | 68 |
| 57.5 | | 4 | 75 |
| 64.0 | 13 | 1 | 5 |
| 40.3 | 290 | 47 | 429 |

第4表で県、監數欄の()の數値は郷、鎮を屬下に持たない監寨等であり、C—A欄の▲印は十四路の平均値以下のもの、B—C欄の▼は同十四路の平均値以上のものを示す。D—A欄の○印は三

第4表 「元豊九域志」各路県監数・郷数鎮数等整理表

| 路名 | (A) | (B) | (C) | (D) | C/A | B/C |
|--------------------------------|------------|-------|-------|------|-------|--------|
| | 県・監数 | 郷数 | 鎮数 | 無鎮県数 | | |
| 河北東西路 | 108(16) | 406 | 178 | 34 | 1.65 | 2.28 |
| 京東東西路 | 69 | 236 | 58 | 35 | ▲0.84 | ▼4.07 |
| 東京西京南京西北路 | 83 | 330 | 127 | 20 | ▲1.53 | 2.60 |
| 河東路 | 77(8) | 307 | 18 | 54 | ▲0.23 | ▼17.06 |
| 陝西路 <small>水興軍 秦鳳路</small> | 133(78) | 441 | 166 | 40 | ▲1.25 | 2.66 |
| 淮南東西路 | 70 | 421 | 174 | 10 | 2.49 | 2.42 |
| 兩浙路 | 80 | 859 | 75 | 38 | ▲0.94 | ▼11.45 |
| 江南東路 | 48(3) | 451 | 54 | 26 | ▲1.13 | ▼8.35 |
| 江南西路 | 47 | 358 | 52 | 27 | ▲1.11 | ▼6.88 |
| 荆湖南北路 | 79(6) | 515 | 66 | 40 | ▲0.84 | ▼7.80 |
| 成都府・梓,利,夔州路 | 177(27) | 1,531 | 695 | 33 | 3.93 | 2.20 |
| 福建路 | 45(1) | 207 | 24 | 30 | ▲0.53 | ▼8.63 |
| 広南東路 | 40 | 183 | 36 | 23 | ▲0.90 | ▼5.08 |
| 広南西路 | 64(10) | 260 | 56 | 41 | ▲0.88 | ▼4.64 |
| 十四路(計) | 1,120(149) | 6,505 | 1,779 | 451 | 1.59 | 3.66 |

ということに関係しそうである。質的發展とは、一つには鎮の都市規模—人口数とか、經濟商工業活動量とか—に関係したものであり、次には鎮の行政分担に関わるものである。斯波義信氏や梅原郁氏¹⁵⁾によれば、宋代では、市場地が百戸以上、通常數

○%程度以下、つまり鎮の無い県数の割合が極めて低いと思われるものにつけた。備考欄—第3表で鎮數欄に※印をつけたものについて、その内容を寨堡の軍事警察的防御施設、関倉務監といった營業管理事務所的な施設、それに井冶場坑等の生産現場の三種に大別した。

第4表から、北宋代ではいずれの数値をとつても鎮の發達が著しいと思われるのは淮南東西路と四川の成都府・夔州・利州・梓州各路とである。ついで河北東西路、東京・西京・南京・京西北路などが続く。逆に鎮の發達が悪いと思われる路は河東路、ついで京東東西路、兩浙路、江南東西路、荆湖南北路、福建路、広南西路などである。江南、華中、華南の主要部分も含まれていることが注目される。それでは鎮の發達が著しいと思われる淮南東西路と四川各路について考えてみると、前者はやはり都開封と長江流域とを結ぶ交通—物流の經過地域に位置してそれが鎮の發達を促したと考えられ、後者は井(塩)冶・場・坑などが極端に多いことからみて、鎮の設置を密にすることが行政の必要性から要請されたと考えられる。ただし、この四川の行政事情は先の第2表からは全く窺えない。

それでは、兩浙路、江南東西路、福建路などではなぜ數値が鎮の發達を示すものとなっていないのであろうか。それは以上の數値はすべて鎮の數的發達を示すもので、その質的發展を示すものでない

千戸の市街地を伴う聚落となれば「鎮」に指定される。鎮は率ね塩場、酒坊、商税場を含むほか、独自の四至領域を有し、稀に城壁を存し、監鎮官、巡檢（時に県尉）が駐し、坊や行籍（官許の商人組合）を組織するものもあり、市街は州県治に準じ「坊郭」と規定される。かくて鎮は実質的に商業都市であり、また行政の末端機関と考えてしかるべきであるが、斯波氏にしても、梅原氏にしても、鎮市（あるいは近郊市街地も）、いずれも行政的にはあくまで「鄉村」に編入されている点に注目している。斯波氏は「城郭」、「鄉村」の行政上の分業構造と、「都市」「農村」の経済的、社会的分業構造との間には、唐以後前者が固定し、後者が流動生成を重ねるといふ原理的な乖離が明瞭化する傾向が現れるのであるとしているが果して然りであろうか。この点について、宋元時代の方志で「鎮」の行政分担に関係した史料を収集してみよう。

(1)淳熙二年（一一七五）修「新安志」卷三、歙県、鎮寨に、

鎮旧有三。巖寺鎮、在県西二十五里、新館鎮、在東三十里、街口鎮、在南百里。今唯巖鎮、設官收酒税之權、而新館、街口不為鎮。

とあり、また、同志同卷酒税には、

巖寺鎮酒税、以紹興十七年所收為額酒六千六百三十六貫二百六十一文、税四千九百三十五貫三十八文。坊場二十六処。

(2)同志、卷四、祁門県、鎮場に、

大共鎮、在県北、紹興二十三年正月、例罷收税坊場一处、河渡無。

(3)同志、卷五、婺源県、鎮寨に、

唐有弦高、五福二鎮、皆咸通六年置。五福鎮、還珠里是也。弦高鎮、後以為県、今県治是也。而唐開元中、旧県自天祐至国朝、為清化鎮、在県西北六十里。

とあり、また、同志同卷酒税には、

酒以紹興九年所收為額万七千五百七十五貫七百四文、商税按会要熙寧十年、県務四千七百八十二貫七百五十文、清化鎮二百四十四貫五十九文。今県務以紹興五年所收為額千八百七貫八百九文、清化鎮不復收税。

(4)同志、卷五、黟県、鎮場に、

西武鎮、在県西二十里、廂口鎮、在西北二十里、廂口鎮今無西武、只有坊場二処。

(5) 景定二年（一二六一）修『建康志』卷十六疆域志、鎮市の十四鎮の中に、

鄧步鎮、在溧水縣南一百二十里。乾道四年正月、差官收稅。宝祐四年、權鎮張師魯、申府移東垣市收稅。
社渚鎮、在溧陽縣西南六十里、乾道四年、移稅額於溧水縣鄧步。

(6) 同志、卷二十三、城關志、務場に、

王沙稅務、在靖安鎮。

抽分場、在靖安鎮。

同志、同卷、藥局、安撫司惠民局の割註に、

一在天津橋南、一在銀行街、一在鎮淮橋側、一在靖安鎮。

同志、同卷、營寨に、

竜灣遊擊水軍寨、在靖安鎮。

(7) 至正三年（一三四三）『金陵新志』卷四、疆域志、鎮市に、

金陵鎮、在江寧縣南六十里、本陶吳舖、宋景德二年改為鎮、今有稅務。

秣陵鎮、在江寧縣南三十里、今有稅務・巡檢司。

常寧鎮、在句容縣東南五十里、天禧元年以鎮置寨、今有稅務。

丁蜀鎮、在句容縣北六十里、有巡檢司。

東陽鎮、在句容縣西北六十里、……今有稅務・巡檢司。

江寧鎮、在江寧縣西南六十里、有巡檢司。

鄧步鎮、在溧水州南一百二十里、宋乾道四年差官收稅、宝祐四年移東垣市收稅、今有稅務・塩倉・巡檢司。

高淳鎮、在溧水州南一百里、有稅務、巡檢司。

拳善鎮、俗名戴步、在溧陽州南三十五里、有稅務。

(8) 蘇州常熟縣の至正三年（一三六三）『琴川志』卷一、務には、

福山・慶安・梅李・許浦四鎮、各有稅務、類供郡之版計。前此郡惟責團解。于縣鎮有逋欠、悉置不問。故鎮官恬弗加意月

解、久益不登唄之、難支亦其一也。嘉定間、令葉凱歷陳其弊於郡、乞勒各鎮徑自筭納、郡守林侍郎采慨然從之。惟福山以兼酒、故尚仍舊貫。至淳祐初、令趙師簡復有請、乃如三鎮例、酒稅併自給於郡焉。

同志、同卷、嘗に、

許浦水軍寨、在縣東北七十里、乾道六年初、自明之定海分屯于此。……先是、建炎紹興、隆興用兵時、水軍嘗戍江陰、亦頗分守福山及許浦、為要害之地方漚。分屯之初、許浦極深濶、實可蔽戰艦、東出海門料角之間、勢与膠西相直。然比十余年來、許浦淤塞、戰艦非鑿塢不可容、非潮盛不可浮。浦外沙渾亦益隆起、潮雖盛大、艦裝重亦不能出、海道有變、其扞接非便也。……

許浦巡檢寨。土兵一百四十四名額。

福山巡檢寨。土兵一百四十四名額。

白茆巡檢寨。土兵一百四十四名額。

同志、同卷、酒坊に、

県有外坊十一、輸課雖不繫于県、然私釀犯禁、県得理焉。故附見。

戶部酒坊四名、以贖軍吏部、揭關課、入版曹、而兩浙漕臣領其事、月解詣漕司。……塘頭。河陽。原塾。支塘。

本府酒坊五、許民間買撲、或郡自遣吏給本措置、課入輸部。……梅里。尚墅。徐鳳。塗菘。陸河。

(9)嘉定六年(一一二二)、『鎮江志』卷一二、宮室、務、丹陽県に、

呂城酒務、在鎮内。

(10)至順三年(一一三三)、『鎮江志』卷六土貢に、

商課歲額鈔^中一十九万七百五十六貫二錢。稅課一十八万八千六百八十貫一錢九分九厘。

在城務六万五千六百四十五貫五錢九厘。

諫壁務二万七千三百九貫七錢五分。

丁角務一万一千九百七十二貫六錢九分。

丹陽県二万八千六十五貫。

呂城務一万九百七十九貫七錢五分。

金壇縣四万四千七百七貫五錢。

嘉定志

熙寧中稅錢三万八十余緡。

在城 二万五千余緡。

諸縣鎮 一万三千余緡。

同志、同卷、治所、在所、

江口稅官庁、在稅務之西。(註) 都商稅官文武兩庁。与夫酒官作院官排岸、及五廂官、皆無官舍。惟江口稅官兼本鎮煙火

公事、有庁。

同 同卷、治所、丹徒縣に、

高資巡檢司、在丹徒縣西、高資市。

開沙巡檢司、在丹徒縣東、諫壁鎮。

同、同卷、治所、丹陽縣に、

包港巡檢司、在丹陽縣東北、埤城市。

呂城巡檢司、在丹陽縣東、呂城鎮。

延陵巡檢司、在丹陽縣西南、延陵鎮。

同志、同卷、治所、倉、丹陽縣に、

有年倉、宋置、在呂城鎮。……今廢。

同志、同卷、治所、酒醋庫務、丹徒縣に、

江口鎮樓二江山樓又名粉溪園、在平等寺前江月樓、在鎮市。

同志、同卷、治所、務、丹陽縣に、

延陵稅務、在鎮內。

延陵酒務、在鎮内。

呂城務、在呂城鎮壩上。

呂城酒務、在鎮内。

同志、同卷、治所、駅伝、丹陽県に、

呂城駅、在丹陽県永濟郷呂城鎮泰定橋之西北。至元十八年扠為屋、大小二十九楹。

同志、同卷、治所、郵伝、丹徒県丹陽県に、

諫壁鋪、南至陶莊十里。

呂城鋪、南至武進県張店鋪九里。

同志、同卷、治所、場、丹徒県に、

造船場、宋置、在江口鎮。

(11)咸淳四年(一二六八)修『毘陵(常州)志』卷六、官寺、場務、晉陵(県)に、

翰林務、在県東二十五里。

同、武進(県)には、

万歳務、在県北。

青城務、在県北。

同、宜興(県)には、

湖汛務、在県南四十里。

張渚務、在県西南七十里。

(12)紹熙四年(一一九三)修『雲間志』上、鎮戍に、

青竜鎮、去県五十四里、居松江之陰、海商輻輳之所。……国朝景祐中、置文臣理鎮事、以右職副之。今止文臣一員。政和

間、改曰通惠。高宗即位、俊為青竜云。管界水陸巡檢司、在青竜鎮中。

金山巡檢使、在県東南九十里。

(13) 咸淳四年（一二六八）修『臨安志』卷五十四、官寺、仁和県に、尉司、在良山門外范浦鎮市、紹興元年正月尉高公泰建。

買納支塩庁、在湯村鎮市。

(14) 同志、卷五十五、官寺、小庫九に、

安溪庫——在安溪市。余杭庫——在余杭県市。奉口庫——在奉口市。塩官庫——在塩官県市。長安庫——在長安鎮市。許村庫——在許村市。臨平庫——在臨平鎮市。湯鎮庫——在湯村鎮市。

(15) 同志、同卷、官寺、務に、

江漲橋稅務、在江漲橋鎮市。淳祐三年重建。

(16) 宝慶『四明志』卷三、務鎮官に、

結埼監鎮、文一員。

同志、卷十四、奉化県志、官僚に、

結埼鎮監官。

結埼寨巡檢。

(17) 嘉泰元、二年（一二〇一・二）修『会稽志』卷十二、八県に、

鎮……錢清鎮、在県西北五十里。

場……錢清塩場、在県西北五十里。

鎮……西興鎮、在県西一十二里。

漁浦鎮、在県南三十五里。

倉場務

西興受納米倉、在県西一十二里。

西興商稅場、在県西一十二里。

漁浦稅場、在県南五十里。

西興酒務、在県西一十二里。

漁浦酒務、在県南三十四里二百三十歩。

鎮……五夫鎮、在県北三十里。今廢。

倉場務……五夫稅場、在県北三十五里。

(18)嘉泰元年(一二〇一)『吳興志』卷七官制、烏程県に、

監烏青墩鎮稅兼煙火公事一員、多差文臣京官。

大錢管界巡檢一員、多差武臣大使臣正副使。

同、歸安県に、

施渚鎮監官一員、係文官。

管專備三名

同、長興県に、

監四安鎮一員。

選左。

四安管界巡檢一員。

監合谿橋賞酒庫一員。

監和平橋賞酒庫一員。

同、徳清県に、

監新市鎮一員。

同、安吉県に、

監梅谿酒稅一員。

同志、卷八公廩、烏程県に、

烏渚鎮稅務、在本鎮。每年月合發一千七百七貫文、經係本鎮團綱起發、赴州庫。

旧図経云、商稅務一、在県東南九里。

同、歸安県に、

図経載、場務一、商稅売茶塩場、在施渚鎮。惟稅場、渚稅務。

旧圖云續五十二、百八十五貫。

(19) 嘉定十六年(一二二三)修『赤城志』卷七公廨門、倉庫、臨海に、

章安酒庫、在県東南一百二十里章安橋西。章安醋庫、在県東南二百二十里章安鎮側。今廢。

同、場務、臨海県には、

章安鎮稅場、在県東南一百二十里。今廢。

同、場務、黄巖県には、

路橋鎮、在県東南三十里、旧名新安。後省罷。

嶠嶺鎮、在県南一百二十里、後省罷。

同、場務、寧海県には、

県渚鎮、在県南七十里、唐武徳中建。

(20) 至元二十五年(一二八八)『嘉禾志』卷三鎮市、松江府には、

青竜鎮、在府東北五十四里。……今鎮治延袤、有学、有獄。無復海商之往来矣。

また、正徳『松江府志』卷九郷保、鎮市に、

宋以海船輻湊、烏夷為市。又設監鎮、理財鎮。故有治、有学、有獄、有庫、有倉、有務、有茶場・酒坊・水陸巡司。

鎮の行政分担は次のように整理されよう。

A 巡檢司の設置……丁蜀鎮・江寧鎮(7)、大錢鎮(18)

B 酒坊、酒稅徵收場……巖寺鎮(1)、大共鎮(2) 清化鎮(3)、廂口鎮(4)

C 商稅徵收、稅務の設置……鄧步鎮、社渚鎮(5)、金陵鎮・常寧鎮・拳善鎮(7)、橫林鎮、万歲鎮、青城鎮、湖湫鎮・張渚

鎮(11)、江漲橋鎮(15)、路橋鎮・嶠嶺鎮・県渚鎮(19)

D 稅務・酒務の設置……梅里鎮(8)、漁浦鎮(17)

E 倉庫場の設置……安溪鎮等(14)、五夫鎮(17)

F 塩場・塩倉の設置……湯村鎮(13)、錢清鎮(17)

G 稅務・酒務・米倉……西興鎮(17)

H 巡検司と税務の設置……秣陵鎮・東陽鎮・高淳鎮(7)、許浦鎮・福山鎮(8)、延陵鎮(10)

I 尉司(県尉)の駐在……苑浦鎮(13)

J 監鎮官の設置……青竜鎮(12)、鮎埼鎮(16)、烏青湫鎮・施渚鎮・四安鎮・新市鎮(18)

K 巡検司と税務とその他の行政機関……靖安鎮—安撫司惠民藥局(6)、鄧步鎮—塩倉(7)、呂城鎮—倉・駅・郵便鋪(9)

(10)、江口鎮—造船場(10)、諫壁鎮—郵便鋪(10)、青竜鎮—治(監鎮)、鎮学、獄、庫、茶場、酒坊、水陸巡司(20)

こうした鎮の行政分担の多様さは、史料の記載表現によるところもあり、必ずしも実態そのものと考えられないところもあるが、A—K種々の行政分担があつたことは否定できない。つまり、鎮は、その鎮のおかれた種々の条件によつて行政分担にいろいろと差異が設けられていたと思われる。最も分担の軽い鎮は巡検司の設置だけとか、酒税・商税の徴収機関—酒務・税務しか設けられていないものから、その鎮専門の行政官—監鎮が設けられ、また、学、獄、庫、各種場が設けられ、文字通り県城ランクの行政機関まで設けられたものまで、種々の差異がみられた。しかしそれにしても、宋元から明前半期、鎮が行政の末端機関となつていたことは疑いない。

三、明末以降、清代の行政サイズ

—行政と民間組織—

第2表から読み取れる二番目の重要な問題は、明から清にかけて、特に十八世紀後葉の清朝乾隆期の人口増加に対する行政の対応がいかに行われたかである。結論を言えば、その行政の対応は全く不十分なものであり、人口の過密と過疎現象から起こるさまざまな社会問題はそのまま社会の中に歪となつて残り、社会—民間の側がその対応を迫られたのであつた。行政の対応をまず考えてみると、清は明の行政制度や政治組織をそのまま継承したが、人口と資源増加に対応するためには、康熙三年(一六六四)、湖広(省—布政使司)が湖北・湖南両省に、同五年(一六六六)陝西者が陝西・甘肅両省に、翌六年(一六六七)江蘇省が江蘇・安徽兩省に分省されることがあり、また、漢人の少数民族地域への進出地方に直隸州や直隸庁が新設されること等以外に、行政の拡大は殆どみられなかつた。省の新設は清末の光緒一〇年(一八八四)の新彊省、同一三年(一八八

七)の台湾省の設置までみられなかった。県数の増加も微増で、漢のそれへの回復はほど遠かった。宋代では前節にみたごとく府州県行政を鎮が行政分担することで行政量全体が拡大する傾向がみられたが、清代ではどうであろうか。

明清時代の府県レベルの行政の具体的内容とか、まして行政量の実数などはこれまで案外わかっていない。今後、種々な方法で測定計量しなければならぬが、さし当って筆者の手探り感触による感じだけを言えば鎮(のみならずそれ以上の府県にしても)行政は後退していた感がある。旧稿⁽¹⁶⁾で述べたごとく、明中期以後、鎮の税務・巡検司等は廃止もしくは縮小される傾向にあり、たとえ清朝に巡検の復活があつたにしても、それは宋—明の伝統的な鎮行政のそれではなかつた。種々の事柄や問題について今後さらに検討しなければならぬのは当然であるが、ここでは別の事実関係を重視することで、明末以降、清代の行政サイズの測定を行うこととしたい。

単純なものの言い方をすれば、行政の欠陥を民間が埋めた、埋めようとしたのである。この民間とは地域住民と客商らの商人の場合が考えられる。なお、地域住民には個人、特に郷紳の場合と宗族などとの場合がある。後者客商らとは、行会や会馆公所の場合、各種帮などの組織の場合がある。その全体的考察はなお、今後を待たねばならないが、さし当り、前節—宋代の鎮との関係で、明末、清代の鎮の行政のあり方をめぐる諸問題に言及しておこう。

県以下の地方区轄、行政区轄である郷、鎮の方志である郷志、鎮志は、その成立が大体、清末、民国時代であるが、中に次のようなものが十八世紀乾隆年間以前の編纂である。

- ①康熙二十八年(一六八九)「具区志」(蘇州)
- ②乾隆三十年(一七六五)「吳郡甫里志」(同)
- ③康熙十四年(一六七五)雍正統纂、「澹墅関志」(同)
- ④乾隆三十六年(一七七二)「盛湖志」(蘇州・吳江)
- ⑤康熙五十一年(一七一三)「開沙志」(鎮江)
- ⑥不詳「沙頭里志」(蘇州・太倉)
- ⑦乾隆二十二年(一七五七)「乍浦志」(嘉興・平湖)
- ⑧乾隆五十七年(一七九二)「乍浦統志」(同)

⑨ 乾隆二十五年（一七六〇）『烏青鎮志』（湖州・烏程）

日本に将来伝来したものを列挙しただけなので、実際に編された郷・鎮志はその数倍はあつたはずである。県以下の地方区轄について方志が編纂されること自体が郷・鎮の行政のあり方の何かの面を示す。それはともかくとして、各郷・鎮志の公署の記載をみよう。

① 康熙『具区志』卷九官署には、

(A) 用頭巡檢司、宋時本在湖州呂山界。元祐八年、遷設於洞庭山用頭。明洪武間、再遷於後保、正統間、巡檢劉瑄重建官厅。

今衙門已廢、設官如故。

東山巡檢司、明成化十八年、巡撫都御史王恕奏准、設於渡水橋。明末廢。本朝康熙廿二年、里人吳時雅、倡衆重建。

香蘭巡檢司、在馬跡山山寨前灣、今所称衙門坡是也。設於宋、明廢。

(B) 太湖營、國朝康熙四年、浙督趙廷臣題設。

遊擊一員 衙門在洞庭山用頭大步山上。

守備一員 衙門在烏程縣大錢

千絲二員（略）

把總四員 一汛守吳興縣東山。

一汛守吳江縣吳淞。

邏兵一千人。（略）

④ 乾隆『盛湖志』卷下建置志に、

(A) 本朝鼎興以來、文教日盛、雍正年間奉特旨、省会各設書院、發帑金万両、為修脯資。惟江南則江寧・蘇州・揚州、竝皆設焉。盛沢向無義・社學、前任蘇府雅、勸捐公費、設有書院一所、在充字圩西柵。乾隆九年七月十三日、知蘇州府事覺羅雅爾哈善、撰記立碑于學舍第三進東壁額、曰松陵學舍。知吳丁元正、分防吳丞熊晉。碑陰、乾隆十年清和月、吳丞署吳事熊晉記。

計開

姚重英·殷宜錚等共三十九人、及濟寧·濟南·平陽衆商共捐美銀一千零二十兩零四分。

一、置買沈渭消房屋一所、併基地·漁池·空地共三畝九分、佃二伯七十兩、文契附卷。

一、除修造外、存各典生息銀五百兩、每年息銀六十兩、週閏加五兩。

一、東首房屋十一間、出賃每歲收足制錢十五千、四百八十文、週閏加三百九十文。

一、每歲塾師修脯五十兩、門役工食六兩。余作會課飯食并修理等費、每年例、由分防斤造冊、報府核銷。

一、學舍計共三進、第一進牆門三間、第二進敬業堂五間、第三進七間、內設先賢紫陽文公朱子神位。

(B)又添設義學、教誦、其按年公費、係本色原住長沙府通判倪南溟名兆鵬捐、所捐田畝、仍屬本家掌管、每年交七折錢廿八兩、作修脯資。

(C)又乾隆年間、設立社倉五所、社長王任堂等五人、分任其事穀、亦分貯各家。

(D)中丞書院、為巡撫吳公名存札設也。康熙五十年以後、郡豪借普濟堂名、私稅一鎮紬疋設櫃、按日斂錢。是時行頭范秉如·湯維柱·戴起膽等、奔控撫憲、立飭禁止。其患遂熄。鎮人感之、建立書院。規模宏敞、費千余金。乾隆三十三年、吳胥藉稽查匪類名色、令紬絲各行、按月巡環填報、為累。亦經行頭陸惠中等、控府飭銷。此与前事、皆擾累商民之弊政也。故附記之、以備後人參攷。

(E)盛沢屬分湖司、借寓白衣菴、無所為公署也。自添設分防厅、遂即以吳公書院廣之、為署。

(F)駐防圩公署、向寓充字圩三官堂。康熙十九年汛官張騎竜、与里老等、價買西觀音堂、居之。遂為公署、在西柵口。後又添設汛官一員借寓。

(G)施棺局、設在火神廟內。乾隆六年、里人募資公建。凡孤貧者到局領棺、分文不費、并給楮錠、立有碑碣。今董事陸惠中等、衷心任事、鎮人共樂道之。近又添置水竜以備救災之用。

(H)義塚、管君宜等、設普同塔于地藏菴東。徽人、設義塚于洞真宮側。紹興人、設義塚海角灣種福菴前。近乾隆年間、分防熊公名晉、捐設義塚于飯字圩東南、近向家蕩、皆美事也。

(I)新庄 旧庄向在市河南北大街、四鄉業紬、俱赴主售買。自乾隆壬申(十七年)三月、庄面被火災者多、因于西腸圩之極南、扒地面向空瀆处、構造百余間、謂之新庄。

⑨ 乾隆「烏青鎮志」卷四、麻字には、

(A) 督捕同知署、在烏鎮官人橋西、康熙元年准分守道張武烈条陳、將湖府總捕同知、移駐烏鎮、給以控制江浙巡鹽捕盜關防、三府六邑悉為統轄。徵君董漢策捐西中橋在空房、為解。……十八九年間、署圯、回駐郡城。雍正三年、鎮紳士沈之澍等、以塩塩不靖籲請、仍駐烏鎮、以資彈压。四年巡撫李衛題准、改烏鎮捕盜同知。六年給餉、買進士唐彦暉故宅。

(B) 青鎮巡檢司署、旧在皂林（鎮）。康熙三十六年、題移青鎮、以駐防解改住、即常平倉故址也。乾隆二十四年、重建大堂。

(C) 烏鎮駐防署、康熙九年、于添設館東偏巡檢衙廢址、并寅賓館三間改住。旋廢、寓普靜寺。乾隆二年、千總吳魁營建于旧址西。

(D) 青鎮駐防署、青鎮常平倉改駐。康熙三十六年、改巡檢司署防官、寓僧寺。乾隆三年、把總吳鵬營建于巡檢司署西東一間、亦常平倉址、余為密印寺僧超言所捨地。

以上現存署。

(E) 鎮守將軍府 唐制無考

(F) 監鎮衙……至德祐丙子後廢。
〔一七六〕
〔宋末二年〕

(G) 酒務……至德祐丙子後廢。

(H) 青鎮酒庫……宋建、元間建、今廢。

(I) 稅務……今廢。

(J) 添設館署、明嘉靖十九年、副使施儒秦、請立梟、部議添設通判、建署于普靜寺東、烏將軍廟西。……國朝順治四年、奉例裁。

(K) 烏鎮巡檢司署、元即監鎮衙故址、明在添設館內。

(L) 烏鎮駐防署、添設厅寅賓館改住。

(M) 青鎮駐防署、青鎮常平倉改住。

以上廢署。

(N) 烏鎮常平倉……今址存、倉廢。

(O) 青鎮常平倉……：国朝倉廢、為防官駐劄、今改青鎮司署。

(P) 烏鎮社学、旧在甘泉巷内。明正德十四年知府劉天和建。嘉靖十二年、烏程知県錢学、修燬于倭。万曆九年同知羅斗、改建波斯巷南、即文昌祠址也。中為堂三間、仍供文昌像。後樓三間、大門扁以小学、置田十九畝有奇、共收租二十三石五斗。

除弁糧外、歲延師、訓地方子弟、詳分守道允行。

(Q) 青鎮社学、在興德橋東宝閣寺之西南。明正德二年桐郷知県陸節建。八年知県任洛重修。万曆二十五年修真觀道士承佃、遂廢。

(R) 朔望行香所、向于修真觀・社学二处。乾隆二十三年同知董世寧、遵制并謁闕帝殿・東嶽行宮・城隍廟。烏將軍廟（烏鎮土神）・索度明王廟（青鎮土神）。

(S) 郷約所 朔宣講于普静寺、望宣講于密印寺。

右は、明末以降、清代地方行政、特に郷・鎮行政の三タイプを見事に表現している。

①は蘇州西方、洞庭山近くの郷村部についてである。官署は巡検司（警察署）と駐留軍営のみである。ただし、明代巡検司はここでも廢革されつつあり、東山巡検司のみが、康熙二十二年に里人の倡衆で重建された。この地域の治安部隊は明らかに巡検から軍に移動していたのである。

④は、絹織物業、紬の特産地、蘇州南方の運河沿いの町、呉江県盛沢鎮である。ここにも①のごとき警察署や軍の斥侯屯地はある（E・F）。しかし、問題はその他の公署である。書院（A・D）・義学の教育機関、社倉・施棺局・義塚の社会事業、それと絹織物業所的な庄である。しかも、それらの設立建設にしても、管理運営にしても、鎮の町組織の完全に自治的なものであった。(D)にみられるように郡豪即ち蘇州の郷紳（か商人、多分郷紳であろう）が普濟堂を建てるという名目で盛沢鎮の紬正に課税してきたのをはね返した行頭范秉和にしても、乾隆三十三年呉江県の胥吏が匪類稽查に名を藉りて紬絲各行から人員の報告をさせ、ついでに上納金Ⅱワイロをせしめようとしたものを拒否した行頭陸惠中にしても、彼の織田信長の軍資金上納を拒否した堺町衆のごとく、いわゆる都市の自治を掌握したギルドマーチャントを考案とさせるものがある。明らかに、彼ら盛沢鎮の大商人は蘇州人と肩を並べ、「江南は江寧（南京）・蘇州・揚州には書院があるが、わが町盛沢には向に義学・社学無し」といった江南の超一流都市南京・蘇州・揚州とも対抗しようとする気さえ窺える。しかも、この盛沢鎮の町には、濟寧・

濟南（山東）、平陽（山西）出身者（以上A）から、新安（徽人）・紹興人（以上H）など山東、山西、新安、浙江の全国型客商が蟄集していた。なおこうした書院や社学・義学などは商人とても学問教育が必要であることを示すものではあるが、盛沢鎮では「松陵学舎」と名付けられたより町人的な学校の方が、巡撫呉公存礼の名に因む中丞書院より盛んであった。なぜなら、呉公書院は後に盛沢属分湖司に改築される。もともと、巡撫呉存礼の名を付す書院も、先述のごとく再度にわたる外部からの圧迫干渉をはねつけた盛沢鎮の記念碑ではあった（以備後人參攷とある）が。さらに、施棺局や義塚など鎮住民の相互扶助を示すが、(G)の末文に水竜（ポンプ）添置による防火組織の建立さえもが伝えられているのである。

⑨は、やはり太湖南岸、湖絲で知られる手工業の町、すでに宋代より著名な烏青鎮であるが、この鎮はもと烏鎮（湖州府烏程県）と青鎮（嘉興府桐郷県）とが一つになった、いわば双子都市であるが、両者が行政系統を異なるところに所屬していたため、いわば境上の町特有の現象に対応する必要があった。それは警察・治安的現象である。そのため、⑨は清代になっても督捕同知署以下のそうした公署が多い。（A・B・C・D）。しかし、それとても、明から清にかけ廃絶をくり返し民間の寺院や一般住宅に寓居することもあった。なお、⑨は現存署の廃置（F—M）を列挙しているが、巡検司・稅務以外は全て宋元時代に廃止されたものである。（N）の常平倉以下のものも、廃止のもの（常平倉、青鎮社学）と現存のもの（烏鎮社学・朔望行香所・郷約所）とがある。後者はやや、烏青鎮の町のものらしいところもあるが、それにしても府県行政との結びつきの強い、顔が上を向いている觀の強いものである。盛沢鎮とは好対象をなすものである。

小 結

宋元代の鎮は、商稅・酒稅の徵取とか巡検司が配された行政の末端機関であった。しかし、明末以降、清代の鎮となると、盛沢鎮のごとく、鎮住民の教育や社会事業、相互扶助のための行政を実現する地域住民の町作りもみられるようになる。住民の側でも私財を投じ、また自らの生命を捧げるまでして自らの鎮のために努力しようとすることさえみられる。しかし、そうした鎮や各種の行政体はむしろ少数であった。行政とは上意下達の上からの国家意志を具体化することの方が一般的であり、それが伝統であった。そこで人々は行政によらず、自らの組織——家であり、宗族であり、行会であり、會館・公所であり、また、各種の幫、秘密結社、宗教結社——に自らの生を保障する場やつながりを求めたのである。ただし、さし当り、かかる民

間組織は行政と真向から衝突するものでなかったことは断つておく必要がある。

註

(1) 西嶋定生『中国古代国家と東アジア世界』（東京大学出版会、一九八三）第一章序説、七―八頁。

(2) 「個别人身的支配」を、ややニュアンスは変るが、「一君万民的支配」と置きかえてみれば、それは中国国家権力の収取体系の二本の内の一本（他の一本は土地税＝賦税）である徭役制にその具体性を見出し、だから地丁銀制の登場による徭役制の廃止→「一君万民的支配」の終焉をみたのは重田徳氏であった。同氏書『清代社会経済史研究』（岩波書店一九七五）第二章国家権力と農民、参照。重田氏にあつては、秦始皇以来の郡県制は清初、十七世紀まで続くことになる。

(3) 和田清編『支那地方自治発達史』（中華民国法制研究会、一九三九）の序説に

その統轄は知州知県等の所謂「親民の官」までに止まり、更にその下の一般人民には殆ど及ばなかった。さうしてそこには自ら別系統の民間の自治的制度が発達してゐたのである。

という。これはまた、清水盛光『中国鄉村社会論』（岩波書店、一九五二）などにも基本的に継承される理解である。しかし、こうした理解が、中国史を国家と社会の二者分離にとらえる、発展なき歴史社会、停滞論につながるものだとし、その批判を込めて中国鄉村制の研究を開始したのは、右地方自治発達史の主要な執筆者松本善海氏であった（同氏著『中国村落制度の史的研究』岩波書店、一九七七）。

(4) 先掲松本氏の研究を含め、これまでは郡県制―鄉村制の関係が主に検討されてきた、先秦―秦漢代の増淵竜雄、木村正雄、西嶋定生、越智重明、池田雄一氏など、六朝隋唐には那波利貞、鈴木俊、仁井田陞、愛宕元氏などのものがあり、唐宋元代では、周藤吉之、中村治兵衛、柳田節子、佐竹靖彦氏らのものがあり、明清代では、松本氏以下、山根幸夫、鶴見尚弘、栗林宣夫氏らのものがある。なお、筆者の旧書『中国封建国家の支配構造』（東京大学出版会、一九八〇）もこれに類しよう。

(5) さし当り、中国地理の地域区分や産業地理区分などの関連が問題となる。これについては早く、バックに中国農業区分地図があり（J. L. Buck, *Land Utilization in China*。邦訳、岩田孝三訳『支那土地利用地図集成』（東学社、一九三八）、天野元之助『中国農業の地域的展開』（龍溪書舎、一九七九）が参考になる。最近では、スキナー氏の大地域（マクロリジョン）の考え方が検討に価する。同氏の理解は中国を河川国家システムとみて、水系による地域分類を行っている点特徴である。（G. W. Skinner, *Urban Development in Imperial China: The City in Late Imperial China*, Stanford U.P. 1977. And: *Presidential Address: The Structure of Chinese History*, *Journal of Asian Studies*, vol. XLIV, NO. 2, 1985）。このスキナー氏の理解がどれほど中国史の理解に適応されるかについて批判したのは、

Barbara Sands and Ramon H. Myers; *The Spatial Approach to Chinese History*, *Journal of Asian studies*, vol. XLV, no. 4, 1986.

- (6) 宋代官僚制については、梅原郁「宋代官僚制度研究」(同朋舎、一九八五)参照。
- (7) 宋代科挙制については、荒木敏一「宋代科挙制度研究」(同朋舎、一九六九)があるが、最近ではチャフィーの次の作が注目される。
J. W. Chaffee, *The Thorny Gates of Learning in Sung China*. Cambridge U. P. 1985.
- (8) Ho Ping-ti, *The Ladder of Success in Imperial China. —Aspects of Social Mobility 1368-1911.* (何炳棣「明清社会史論」), Columbia U. P. 1962.
- (9) 以上については、斯波義信「中国中世の商業」(『中世史講座』5、一九八五、学生社)。参照。
- (10) 斯波義信「宋代商業史研究」(風間書房、一九六八)参照。
- (11) 川勝守「長江デルタにおける鎮市の発達と水利」(『佐藤博士還暦記念・中国水利史論集』一九八二)。
- (12) 主戸数・客戸数の問題は、加藤繁「宋代の戸口」(『支那経済史考証』巻下)以来、宋代史家の注目するところであるが、その実像は不明なところがある。宋代における戸籍調査の具体的メカニズムの究明が先決であろう。
- (13) 梅原郁「宋代地方小都市の一面」(『史林』四一—六)・「宋代の地方都市」(『歴史教育』一四—二、一九六六)・「宋代の戸等制をめぐって」(『東方学報』京都、四一、一九七〇)。
- (14) 以上、斯波義信、前掲書三一五頁。
- (15) 斯波前掲書三一六頁。
- (16) 川勝守「中国近世都市の社会構造」(『史潮』新6号、一九七九)。なお、これには夫馬進氏のコメントがつき、三点で拙稿に対する批判を行っているが、本稿本文以下はそれへの解答の一部である。夫馬氏は嘉慶『松江府志』を引いて清代でも巡検司が存在していたとするが、それは明末以降清初までに革除廃絶されたものが、清代に復活された過程を見落している。ただし、夫馬氏の批判に対する私の反論は本稿では未完である。